

史跡 齋宮跡

平成6年度現状変更緊急発掘調査報告

平成8年1月

明和町教育委員会

序

史跡齋宮跡は、指定面積が137haに及ぶ全国でも有数の大規模史跡です。

昭和45年以来続いてきている発掘調査の面積は約17haに達し、時代による変遷や、方格地割の規模、建物配置などその様相が次第に明らかになりつつあり、県内外からの史跡解明に係る関心は、ますます高くなってきています。

しかし、齋宮の全貌を明らかにするには、発掘調査にまだまだ長い年月を要し、関係機関に対する要望も強いものがあります。

また、この貴重な文化遺産を後世に伝えていくため、昭和54年以来土地の公有化を年次的にすすめており、平成6年度までの土地公有化面積は約21haに達しています。

公有化した土地は現在までに、齋王の森・上園・篠林・塚山の各広場や齋宮歴史博物館南部の古里ひろばなどとして整備され、齋王まつりをはじめ各種行事の開催、県内の学校の遠足などにも活用され、その利用頻度は年々高まっています。

一方、齋宮跡は史跡内に600世帯におよぶ住民の生活が営まれているという特殊性から、日常生活に伴う史跡現状変更は、平成6年度の申請件数としては35件を数え、6件について事前の発掘調査を行いました。

その結果、第106-3次調査では、齋宮跡内院地区に想定されている鍛冶山西ブロックの外郭柵列、方格地割の南北道路を確認するなど、道路側溝の改修という限定された調査ながら、大きな成果を得ることができました。

最後に、発掘調査にあたりましては、齋宮歴史博物館調査研究課及び地元地権者のみなさまのご理解とご協力を賜りました。末筆ではありますが、ここに厚くお礼を申し上げます。

平成8年1月

明和町教育委員会

教育長 山 中 昇

例 言

- 1 本書は、明和町教育委員会が平成6年度に実施した史跡齋宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
なお、第106-1・2・4・5次の発掘調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第106-3次の調査は、原因者が費用を負担して実施したものである。
- 2 調査は明和町教育委員会が調査主体となり、齋宮歴史博物館調査研究課及び明和町教育委員会齋宮跡対策課が担当した。
- 3 現地の発掘調査及び本書の作成には、齋宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏、赤岩 操と明和町教育委員会齋宮跡対策課の森田幸伸があたり、田中里佳（奈良大学々生）、川合正宏（立命館大学々生）の参加を得た。
また、遺物整理等に当たっては島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子及び田端由香、田所美里の協力を得た。
- 4 遺構実測図・遺構表示などは、すべて齋宮歴史博物館刊行の発掘調査概報に準じている。

目 次

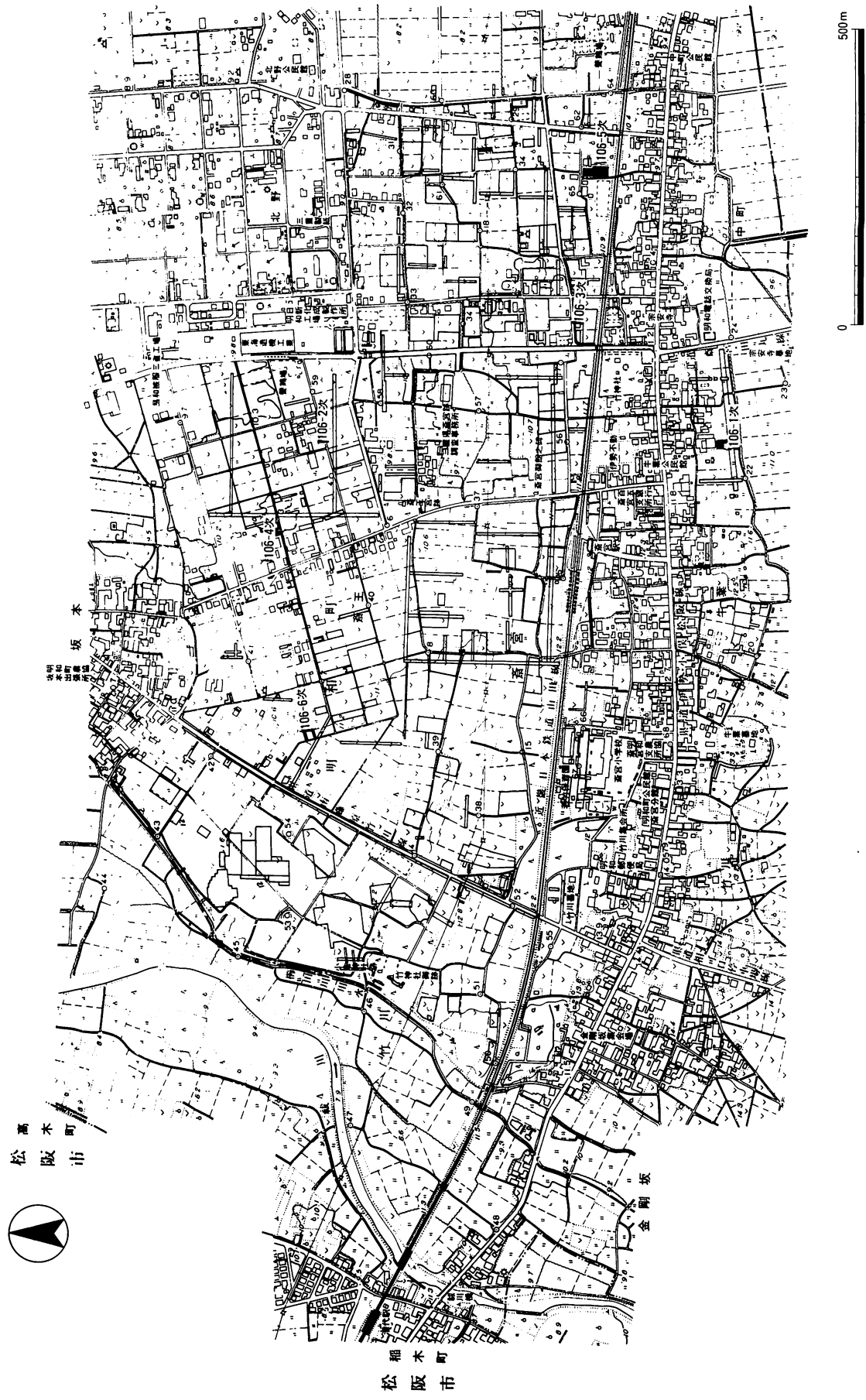
1 前 言	1
2 第106-1次調査	2
3 第106-2次調査	4
4 第106-3次調査	5
5 第106-4次調査	11
6 第106-5次調査	15
付篇1 町道側溝新設に伴う事前調査の概要	20
付篇2 史跡現状変更等許可申請	21
発掘調査報告抄録	26

表・挿図目次

[表] 1 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2 鎌倉時代大溝調査一覧表	12
3 平成6年度現状変更等許可申請一覧表	22
4 掘立柱建物・柵列一覧表	23
5 出土遺物観察表	23
[図] 1 発掘調査場所位置図 (1:10,000)	
2 第106-1次調査 調査区位置図 (1:5,000)	2
3 " 遺構実測図 (1:200)	2
4 " 遺物実測図 (1:4)	3
5 第106-2次調査 調査区位置図 (1:5,000)	4
6 " 遺構実測図 (1:200)	4
7 " 遺物実測図 (1:4)	4
8 第106-3次調査 調査区位置図 (1:5,000)	5
9 " 遺物実測図 (1:4)	6
10 " E区遺構実測図 (1:200)	7
11 " F区・G区遺構実測図 (1:200)	9
12 第106-4次調査 調査区位置図 (1:5,000)	11
13 " 遺構実測図 (1:200)・遺物実測図 (1:4)	11
14 " 鎌倉時代大溝調査地点 (1:4,000)	13
15 第106-5次調査 調査区位置図 (1:5,000)	15
16 " 遺構実測図 (1:200)	16
17 " 遺物実測図 (1:4)	18
18 " 遺物実測図 (1:4)	19
19 町道側溝新設 調査区位置図 (1:5,000)	20

写真図版

PL1 第106-1次調査	上：調査区全景 (南から)	下：SD7336 (西から)
PL2 第106-2次調査	上：調査区全景 (北から)	下：調査区全景 (東から)
PL3 第106-3次調査	上：E区東半 (西から)	下：SD6802 (南東から)
PL4 第106-3次調査	上左：F区西半 (西から)	上右：F区西半 (東から)
	下：SA6760柱穴 (北から)	
PL5 第106-3次調査	上：G区北端 (西から)	
	下左：G区全景 (北から)	下右：G区全景 (南から)
PL6 第106-4次調査	上：調査区全景 (南から)	下：SD2505 (東から)
PL7 第106-5次調査	上：調査区北東部 (北から)	下：調査区北半 (北から)
PL8 第106-5次調査	上：調査区南半 (北から)	下：調査区南半 (東から)
PL9 第106-1次～106-5次調査	出土遺物	
PL10 第106-5次調査	出土遺物	



第1図 発掘調査場所位置図 (1 : 10,000)

1 前 言

齋宮跡では史跡指定以来26年間で平均47件余りの史跡現状変更の許可申請が出されているが、平成6年度は例年より比較的少ないとはいえ、35件の申請が提出された。その大半が史跡内住民による住宅や農業用倉庫の増築や改築を内容とするもので、許可条件に応じて申請者から連絡を得たものについてのみ基礎掘り等に際し工事立会いを実施しているものの、残念ながらいずれも事前の発掘調査を実施し得るには至らなかった。

ここに報告する緊急発掘調査は、農地転用を伴う住宅や農業用倉庫等の新築に伴って実施し得たもの及び地域生活環境整備にかかる公共事業のうちの1件のみである。

第106-5次調査を除いてそのほとんどが様々な制約により狭小な調査面積ではあるが、一定の成果を得ている。中でも年度当初に実施した第106-1次調査は、方格地割の南辺に面する各区画の南辺中央付近に位置する3か所目の調査で、実施前には平成4年度の第96-5次調査に続いて門跡や柵列が検出されることも予想されたが、その所在は確認されず、当該区画では広範囲を囲む柵列の所在を想定し難いことが有力となった調査である。

また、第106-3次調査は昨年度の第102-6次調査に続く通称中町排水の改修に伴う調査で、従来からその所在が知られている、一時期の「齋宮」に於ける中枢部を取り囲む柵列の一部を検出した。

一方、第106-5次調査では史跡西部の古里地区から直線的に延びる奈良時代古道とその両側溝や方格地割の東限から次の南北方向の区画道路及びその両側溝を検出する等、調査前から予想されていたとはいえ重要な成果を得た。

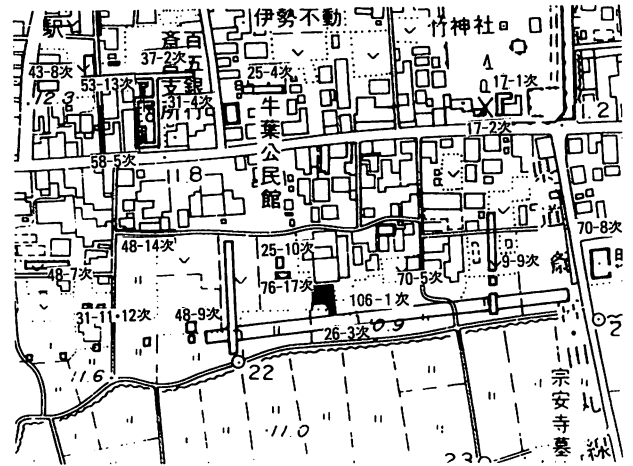
これら史跡現状変更に伴う緊急発掘調査は、様々な制約から必ずしも十分な調査とはいえず、遺跡の保存にとっても少なからず問題を抱えているが、齋宮跡の解明にとっては大きな一助となっているものと考えられる。
(吉水康夫)

年度	現状変更 申請数	発掘調査 件数	調査面積 (㎡)	補助金事業 調査件数	補助金事業 調査面積 (㎡)
S. 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H. 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
合計	759	180	46,705	125	17,497

第1表 史跡現状変更許可申請の推移

2 第106-1次調査（6AEW-J）

調査場所 多気郡明和町斎宮字鈴池338-1
 原因 農業用倉庫新築他
 調査期間 平成6年6月14日～7月13日
 調査面積 180m²



第2図 第106-1次調査 調査区位置図(1:5,000)

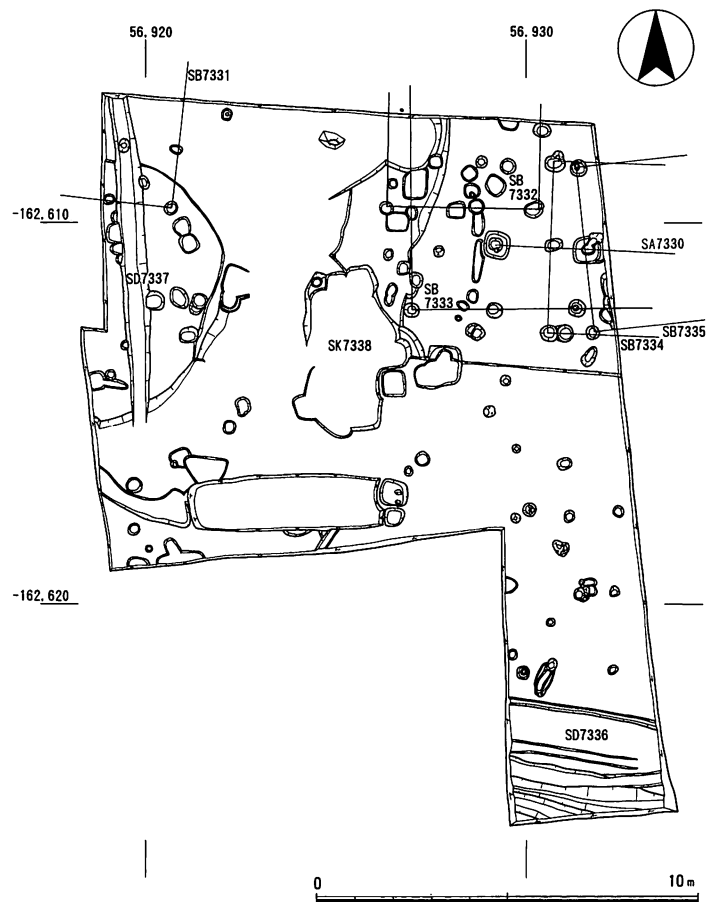
1) はじめに 今回の申請地は、史跡中央南端部の鈴池地区に所在する。この周辺では個人住宅等の新築に伴う事前調査が所々行われており、史跡東端より西に展開すると想定されている碁盤

目状の方格地割の南端ブロック、東より5ブロック目に相当する地域に当たっている。

当該地の東側では第70-5次(昭和62年度)、南側で第26-3次(昭和54年度)、西側で第25-10次(昭和54年度)、第76-17次(昭和63年度)等の調査が実施されており、80点近くの緑釉陶器片が出土している。

2) 調査概要

イ 遺構 調査区は畑地で、東西14m×南北12mに張出部9m×4mをもつ180m²を調査した。遺構面までは耕土、暗褐色土が堆積し、地山面までの深さは西端で0.6m～0.7m、東端で0.4m～0.8mと高低の差が著しい。調査の結果、攪乱溝や土坑が多く見られ、明瞭な遺構を確認するにはいたらず、掘立柱建物5棟、柵1条、溝2条が検出された。SB7334は、出土遺物から中期まで遡り得る。また、SA7330は、柱掘形からみて、平安時代前半期の可能性が高い。



第3図 第106-1次調査 遺構実測図(1:200)

口 遺 物 S B 7334から土師器杯(1・2)、S K 7338から土師器杯(3)が出土している。

(2)は、薄手で口縁端部が外反する器形を示し、底部をオサエ後板状工具によるナデを施し、口縁部の2/3ほどをヨコナデする。(1)は器形が丸みをもち、直線的に開き、外面の調整もオサエ後、口縁部付近をヨコナデする平安時代中期の様相を示している。

(3)は、口径11.2cmと矮小化した器形を示し、体部をオサエ後口縁部をヨコナデする。

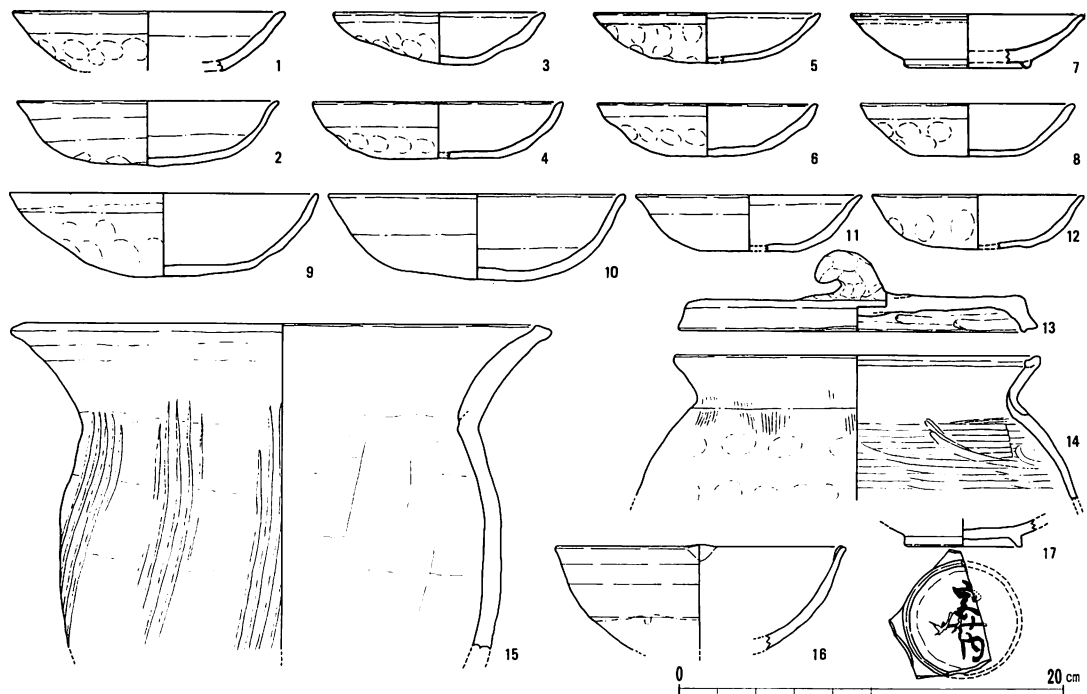
(4～6)は、建物としてはまとまらないが、小穴から出土した土師器杯である。器形及び法量に微妙な差異を示し、器形の丸みが強く、断面が弧状に近くなる。口縁部をヨコナデ調整し、端部が丸いもの(6)と内傾する面をもつ(4・5)がある。

(7)は、灰釉陶器の小椀であり、内弯気味に開く体部と低い高台、口縁部周辺にのみ灰釉を漬け掛けることなどから折戸53号窯式期の製品と考えられる。

包含層出土の土師器は、口径15.6cm～16.0cmの大型の杯(9・10)と、口径11.0cm～11.8cmの小型の杯(11・12)に区分される。底部をオサエ後ヨコナデし、口縁端部をヨコナデするe手法で調整される。

(13)は、壺の蓋と考えられ、鍵状の把手が貼り付けられる。

(17)は、灰釉陶器の椀で、底部外面に3文字の墨痕跡が認められ、「宮口内」と判読されるかと思われる。「宮」は、これまでの調査で出土した墨書土器等の文字資料にはない初見のもので、斎宮寮に関わる重要な地域であることをうかがわせるものである。

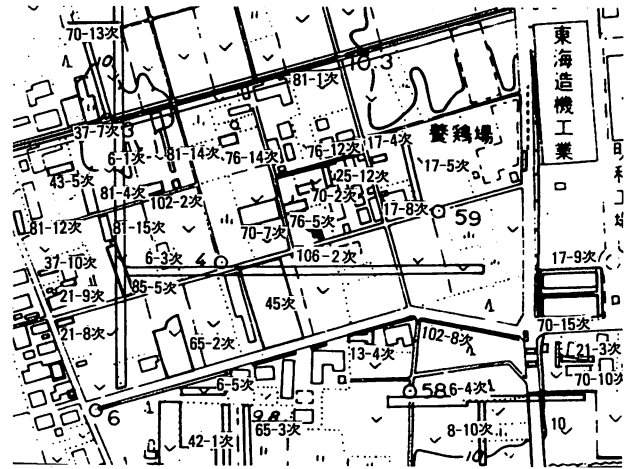


第4図 第106-1次調査 遺物実測図 S B 7334 ; 1・2, S K 7338 ; 3, 包含層他4～17

ハ まとめ 今回の調査は、想定される方格地割内の重要な地点であり、比較的大型の柱掘形をもつ柵列と推定されるS A 7330の存在と、平安時代中期以降と考えられる掘立柱建物群の存在は、この区画の機能を考えるうえで重要な資料を提供することとなった。今後とも周辺地域のより広範囲にわたる調査を実施し、遺構を解明していく必要性が増してきている。(赤岩 操)

3 第106-2次調査(6AEE-W)

調査場所 多気郡明和町斎宮字楽殿2891-3
 原因 個人住宅の新築
 調査期間 平成6年7月7日～7月14日
 調査面積 26㎡



第5図 第106-2次調査 調査区位置図(1:5,000)

1) はじめに

今回の申請地は史跡中央北辺の楽殿地区の北寄りに位置し、この一帯ではこれまで史跡現状変更にもなう比較的小規模な調査が実施されてきている。これまでの成果では奈良時代および平安時代後半～鎌倉時代の遺構が分布していることが知られている。近隣では計画調査としては第45次調査が実施されており、奈良時代の竪穴住居や円形周溝遺構、平安時代後期から鎌倉時代の竪穴住居、掘立柱建物などが検出されている。この他に現状変更緊急調査として第70-2次、第70-7次調査や第76-5次調査が実施され、L字に屈折する奈良時代の溝や竪穴住居が見つかった。申請地はすでに盛土がされており、遺構面までの掘削が困難であることが予想されたため、この盛土部分を重機で除去してから調査に入った。

2) 調査概要

イ 遺構

およそ5m×5.2mの範囲に、約26㎡の調査区を設定し、現表土から約1.0mまで掘り下げて遺構面を確認したが、遺構は調査区を蛇行して東西に横断する溝1条を検出したのみで、他に樹木根の痕跡とみられる不整形の小穴が散見されるのみだった。

S D7339は幅約1.0m～1.2m、深さ約0.3mの断面弧状の溝で、黒色の埋土に平安時代後期の土師器片、灰釉陶器片が出土している。また、他の遺物としては樹木痕の小穴から山茶碗やロクロ土師器が出土した。

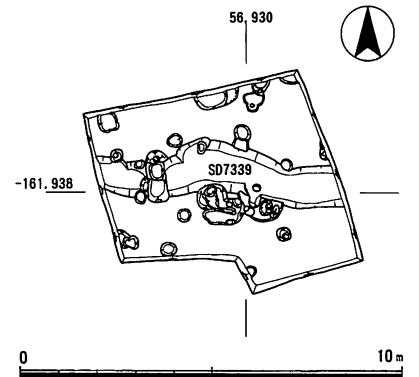
ロ 遺物

遺構出土の遺物は、S D7339の土師器杯(1)があり、底部をオサエ、口縁部をヨコナデ調整するe手法で調整される。

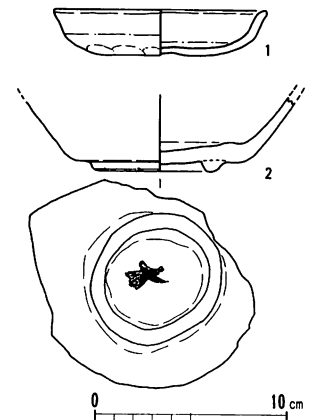
特殊な遺物としては、底部外面に「大」とも判読できる墨書のある13世紀の山茶碗の他、緑釉陶器が2片ある。

ハ まとめ

狭隘な面積の調査であったため、確認された遺構は少ないが、平安時代後期の溝を検出したことにより、この周辺部において当該期の遺構が卓越することを今回も確認することとなった。(大川勝宏)



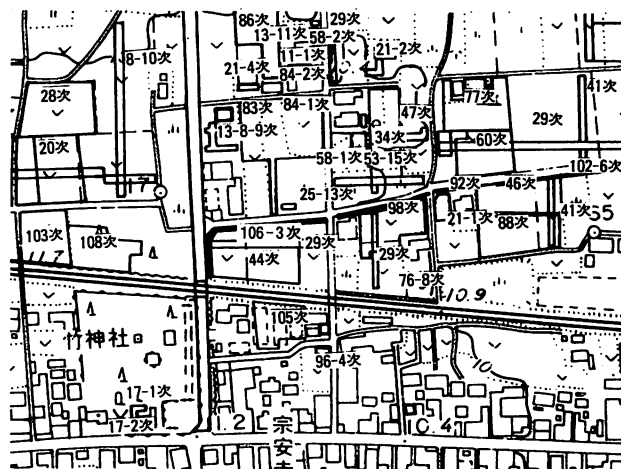
第6図 第106-2次調査 遺構実測図(1:200)



第7図 第106-2次調査 遺物実測図

4 第106-3次調査(6AFL・6AFM)

調査場所 多気郡明和町斎宮字鍛冶山地内
 原因 史跡内生活環境整備事業・側溝改修
 調査期間 平成6年8月22日～10月13日
 調査面積 200m²



第8図 第106-3次調査 調査区位置図(1:5,000)

1) はじめに 今回の申請は、通称中町地内のエンマ川から広域圏道路までの東西道路沿いの総延長470mの既設側溝を改修し、生活排水の効率を良くするものであり、史跡指定地内に居住する住民の生活環境整備に関わるものである。

発掘調査は、既存側溝を撤去した部分を対象として平成5年度には延長270mの範囲を第102-6次調査として実施し、残りの延長200mの範囲については今年度第106-3次調査として行った。また、既設道路(町道)との横断部分については工事立会いとして対応した。

なお、調査区周辺ではこれまで計画調査がかなり進んでおり、平安時代前半期の方格地割が確認されるなど、当該時期の斎宮跡を考える上では重要な地域であることが判明しているが、今回の調査区は、方格地割を構成する道路とその側溝、またその内側で内院が想定される方形区画を囲む柵列と重複しており、関連する遺構・遺物の検出が期待された。

2) 調査概要

イ 遺構 平成6年度の調査は、平成5年度に調査済のD区西端から引き続いて西方に向け、便宜的にE区～G区の調査区を設定して実施した。調査区の幅が狭いうえ既設の側溝を設置した際の攪乱をかなり受けた部分もあり、遺構の状況を十分に把握できなかったといえない結果となった。

以下各調査区について概略を述べる。

E 区 調査区は東・西端側は既設側溝埋設時にかなり削平されていたが、方格地割の区画溝とほぼ並行する東西方向のSD6804を検出したほか、平成4年度の第98次調査で検出した奈良時代の古道SF6800とその両側側溝SD6801・6802の延長部分にあたる溝を確認した。検出したSD6801・6802はいずれも溝幅約0.5m、深さ5cm～10cmである。

F 区 調査区の東半でSA6760、西半でSA6780を検出した。SA6760・6780は第98次調査で確認した東西方向の柵列SA6760・6780の西側延長部分に相当することが判明した。

SA6760は、柱掘形が一辺1.0m前後の方形で、柱痕跡は径約30cmである。柱列の方位はE4°Nを示し、10間分(約29.4m)を検出した。柱間は1尺0.294mを構成尺の単位とす

れば10尺(2.94m)等間が基準と考えられる。

S A 6780はS A 6760の南側約2mに並行して6間分(約17.6m)を検出した。柱間はほぼ2.94m(10尺)等間である。柱掘形は一辺約1.1mの方形で、柱痕跡は直径約30cmである。

なお、調査区西側で検出した溝は南北方向に並行し、幅約1.6m、深さ約0.4mであるが、これらの溝は昭和57年度の第44次調査で検出した方格地割の南北道路の両側側溝S D 2660・2670の北側延長部分にあたる。道路幅は両側側溝の心々間で測ると約13mとなる。

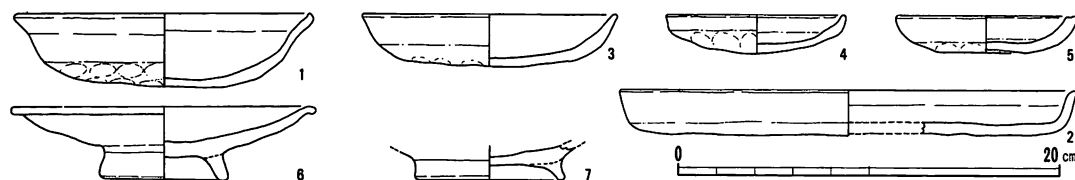
G 区 調査区は既存側溝を埋設する際に地山下約30cmまで削平されており、遺構の保存状況は良くなかった。柱穴や小穴を多数検出したが、掘立柱建物等に関連する柱穴は確認されなかった。

口 遺物 遺構及び包含層を含めても出土遺物は少量であり、土師器細片がほとんどである。

S K 7342出土の土師器杯(1)は、口径15.8cm・器高3.9cmの大型の杯で、口縁部が外反し口縁端部がわずかに肥厚する。底部をオサエ後ヨコナデするe手法で調整し、ヨコナデの範囲は口縁部の1/2以上に及んでいるが、底部が小さくなり、底部と口縁部の境が不明瞭になっていることから前Ⅱ期の杯と考えられる。

S D 2660出土の土師器皿(2)は、口径24.0cm・器高2.4cmの大型の皿で、口縁部がわずかに外方に開き、口縁端部で内傾する面をもつ。底部をヘラケズリし、口縁部をヨコナデするb手法で調整する平安時代初期の皿と考えられる。

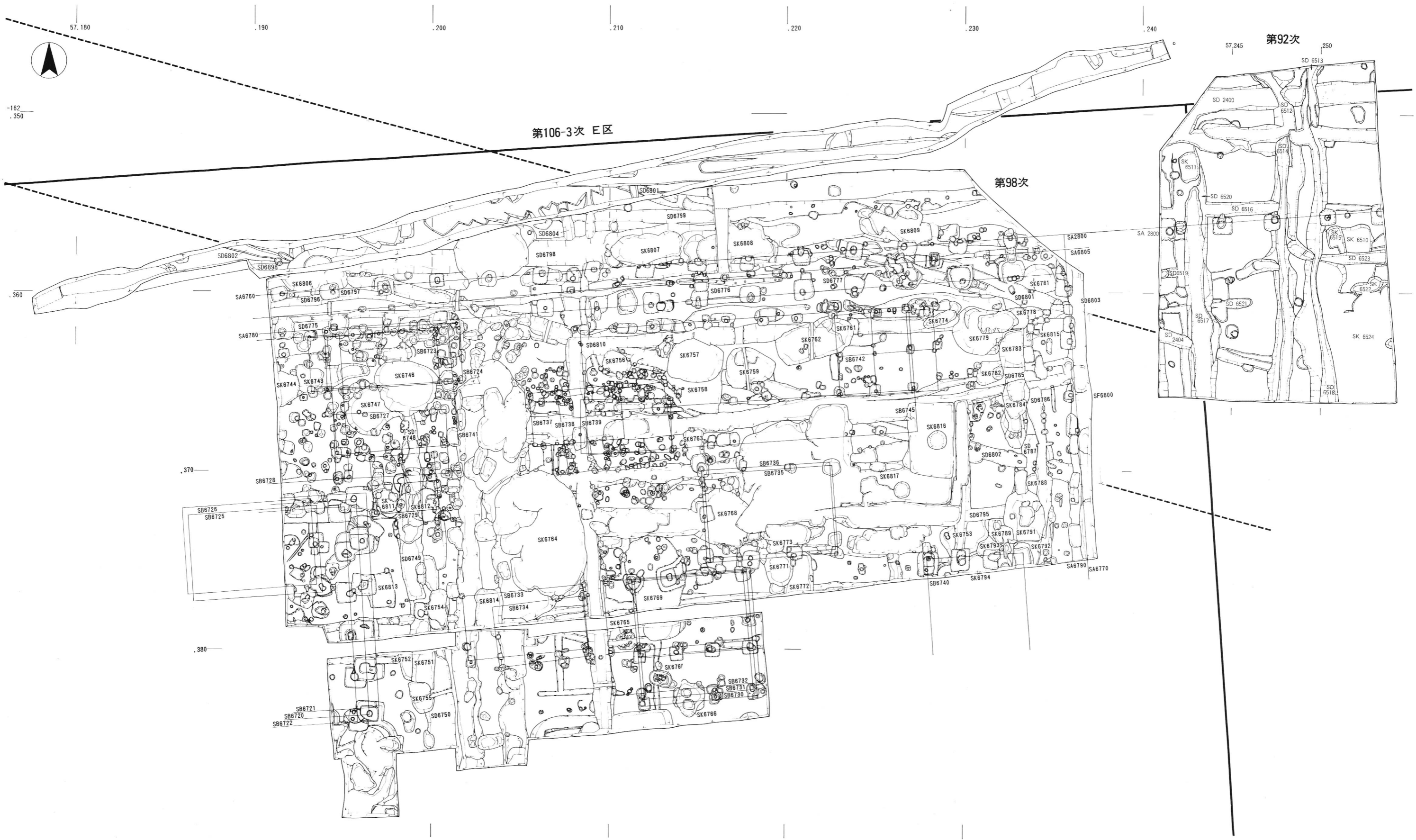
この他、建物としてまとまらない小穴から、土師器杯(3~5)・ロクロ土師器(6・7)が出土している。



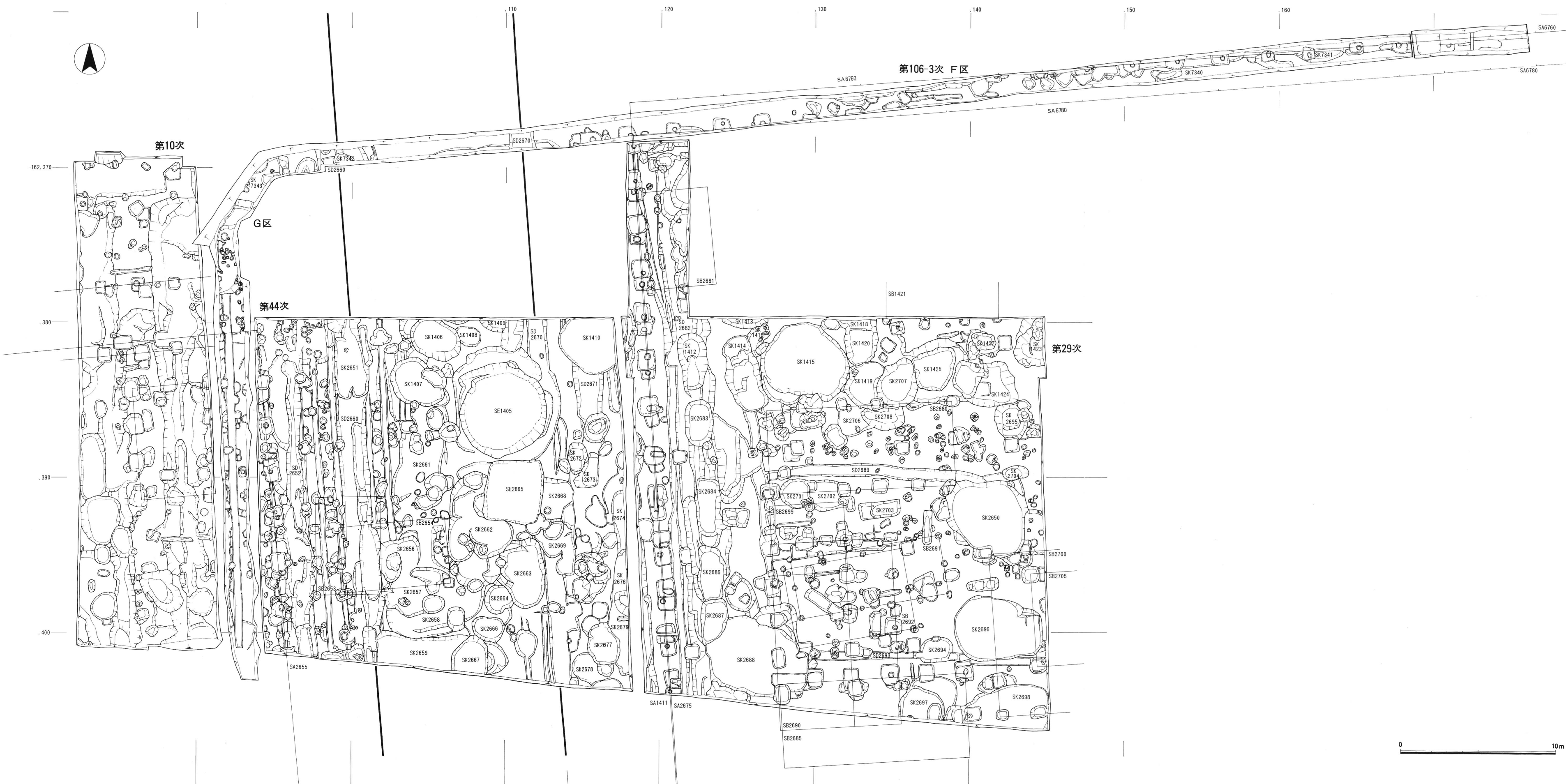
第9図 第106-3次調査 遺物実測図 S K 7342 ; 1, S D 2660 ; 2, 包含層他 ; 3~7

ハ まとめ 今回の調査区は幅が狭く、しかも既存側溝埋設時の攪乱も多かったが、奈良時代の古道と方格地割の南北道路の延長部分を検出し、平安時代初期における東西方向の柵列2条の延長部分を確認するなどの調査結果が得られた。また、調査区西端で検出した柱穴はS A 6780の北西コーナーにあたり、柵列の総長は117.8mに及ぶことが判明した。柵列の柱間を2.94m(10尺)等間と考えるならば40間分、すなわち400尺分に相当する。

今後は周辺での関連する計画的調査の成果に基づき遺構の性格をさらに検討していく必要があると考えられる。(野原宏司)



第10図 第106-3次調査 E区遺構実測図 (1:200)



第11図 第106-3次調査 F・G区遺構実測図 (1:200)

5 第106-4次調査(6AEC-L)

調査場所 多気郡明和町斎宮字荇干2861-3番地
 原因 個人住宅の新築
 調査期間 平成6年10月14日～10月25日
 調査面積 180㎡



第12図 第106-4次調査 調査区位置図(1:5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡中央の北辺部に位置しており、町道(通称「歴史の道」)沿いの荇干地区に所在する。近年この周辺では住宅の新築に伴い小規模ながら緊急発掘調査が行われているが、計画調査としてはこれまでほとんど実施されておらず、遺跡の実態が解明されていない地域でもある。

当該地の東隣では、昭和56年度に斎王地区公民館建設に伴う事前調査として第37-7次調査が実施され、史跡南西部の古里地区から史跡北辺部を通る鎌倉時代の大溝SD2505などが確認されている。

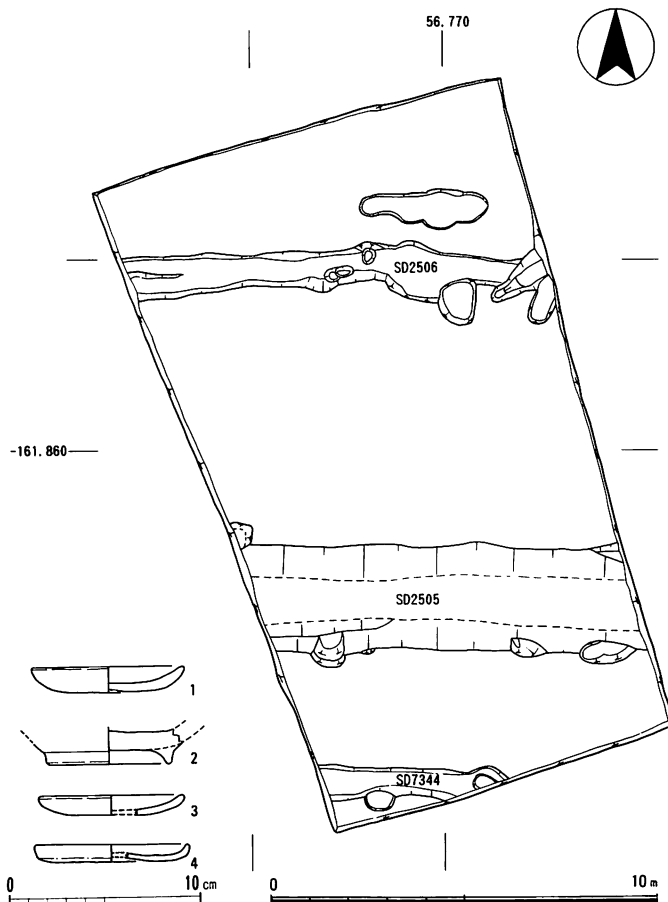
2) 調査概要

イ 遺構

調査地は現況雑木林であったため、伐採終了後重機で表土を除去した。東西10m、南北18mの調査区を設定し、180㎡を調査した。包含層はすでに削平され、地山面までの深さは0.2m～0.4mであった。調査の結果、木の根の攪乱が多く見られたが、主な遺構としては、ほぼ東西に並走する3条の溝を検出した。SD2505は、鎌倉時代の大溝の第37-7次調査の西側延長部分であり、幅は約2.8mである。完掘できなかったが、深さ1m以上、断面形は「V」字形と考えられる。

SD2506も第37-7次調査で確認されている溝の西側延長部分と考えられ、幅約1.0m、深さ約0.2mである。

SD7344は幅約0.8mで深さは約0.15mと浅く、SD2505の南側約4.5m隔ててほぼ並走する。



第13図 第106-4次調査 遺構実測図(1:200)・遺物実測図

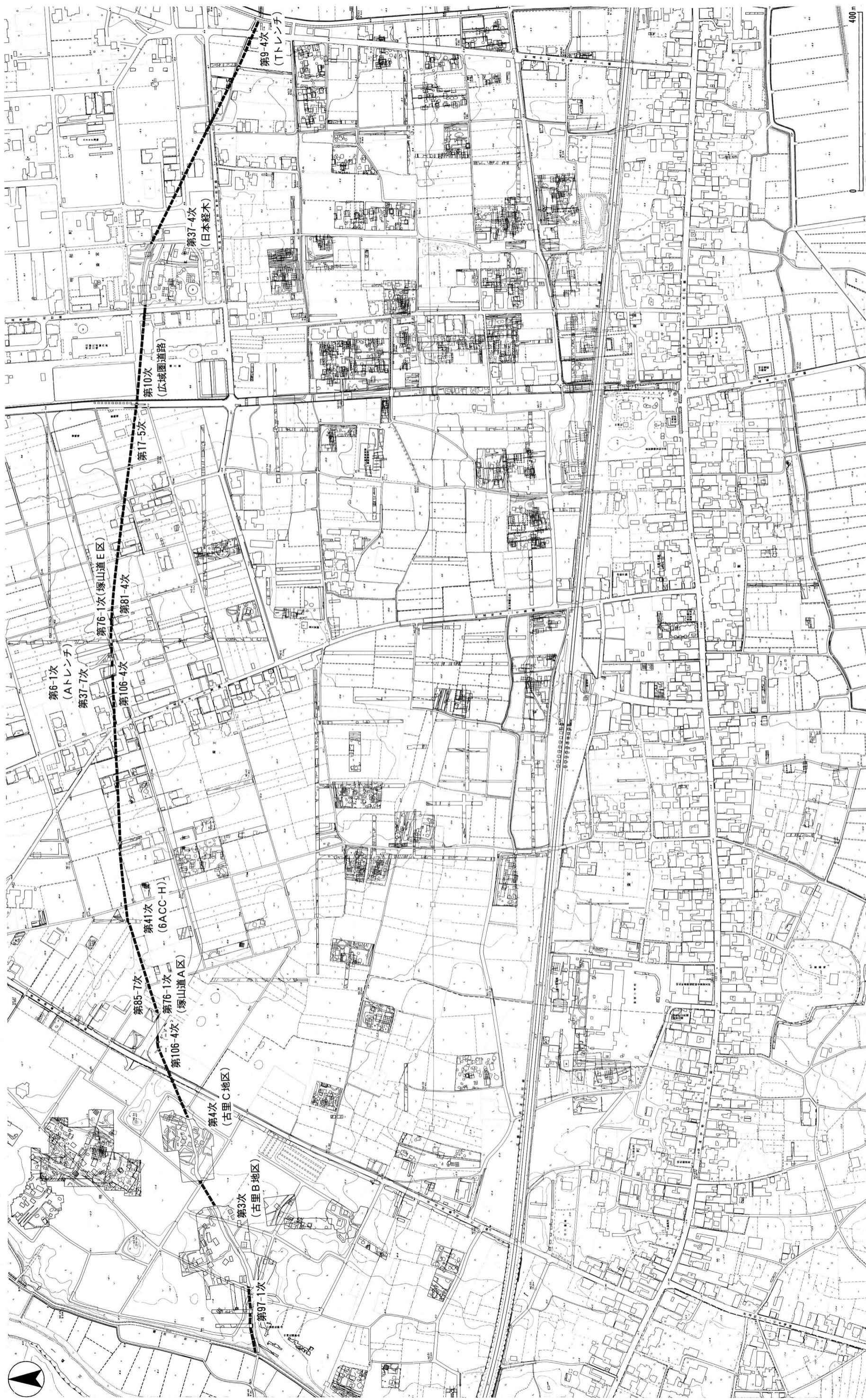
口 遺物 遺物は遺構上面からはまったく検出されず、SD2505の上層から土師器杯の小破片(1)、山茶椀(2)、SD2506の埋土から土師器皿の小破片(3・4)がわずかに出土したにすぎない。

ハ まとめ 今回の調査地では、鎌倉時代の大溝を含む溝3条以外では明瞭な遺構の検出にはいたらなかった。これまで実施されている周辺の調査結果からも宮域北部にあたるこの地区からは斎宮寮に直接関連する遺構は検出されていない状況であるが、今後は周辺地域の計画的発掘調査をもとに本調査区の遺構の性格を検討していく必要があると思われる。

(野原宏司)

年度	調査回数	地区名	遺構番号	確認全長	幅	深さ	溝底標高	断面形	備考
H. 4	97-1次	古里	SD6700	各4m	3.4m	3.4m	8.0m	V字形	トレンチA・B区で総延長20m確認
S. 46	3次 古里B地区	古里		105m	3m~4m	2.2m	8.4m	V字形	東側70mは未掘(深さ0.3mまで)
S. 47	4次 古里C地区	古里	SD50	75m	3m~4m	2.4m ~ 2.7m	8.5m (底はほぼ平坦)	逆台形	西側30mは未掘(深さ1mまで)B地区から総延長202mに達する
S. 63	76-1次 塚山道A区	塚山		23m	3.3m	2.9m	8.4m	V字形	歴史の道
H. 2	85-7次	塚山	SD6277	5m	2.2m	未掘0.5m	(10.7m)		SD50に続く調査区南端で検出
S. 56	41次 (6ACC-H)	塚山	SD5	4m	推定3.5m	2.6m	7.8m		南北トレンチ北端で検出
H. 6	106-4次	苅干	SD2505	10m	2.8m	未掘0.8m	(8.8m)		SD2505の西側延長部分
S. 56	37-7次	苅干	SD2505	8m	3.0m	1.0m	8.6m	V字形	調査区南端で検出
S. 63	76-1次 塚山道E区	楽殿		33m	3.2m	未掘0.5m	(8.9m)		歴史の道
S. 48	6-1次 Aトレンチ	楽殿	SD5	2.0m	3.2m	2.0m	8.6m	V字形	トレンチ北端で検出歴史の道と重複
H. 1	81-4次	楽殿	SD50	9m	3.0m	未掘0.8m	(8.7m)		調査区北辺で検出
S. 52	17-5次	楽殿	SD5	2m	2.6m	未掘0.4m	(9.4m)		南北トレンチ中央部で検出
S. 50	10次 広域圏道路	西前沖	SD5	1.2m	3.0m	2.2m	7.8m	V字形	南北トレンチ部分
S. 56	37-4次 日本経木	西前沖	SD5	70m	2.0m	0.9m ~ 1.4m	新8.5m 旧8.3m	V字形	新旧SD5
S. 50	9-4次 Tトレンチ	東前沖	SD5	1.8m	1.8m	1.4m	6.7m	V字形	南北トレンチ北端で検出

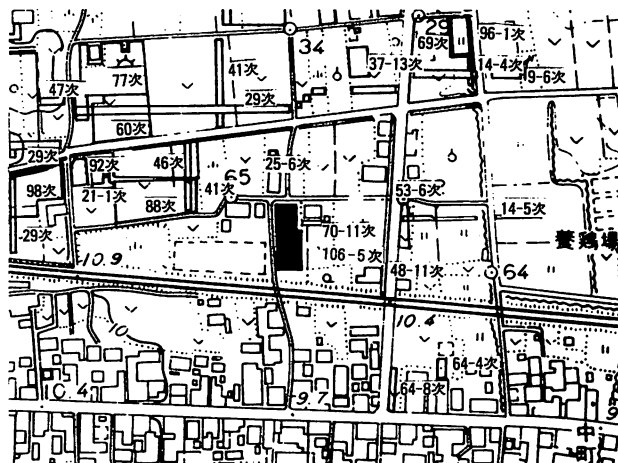
第2表 鎌倉時代大溝調査一覧表



第14図 鎌倉時代大溝調査地点 (1 : 4,000)

6 第106－5次調査（6AGO）

調査場所 多気郡明和町斎宮字鍛冶山2362-3番地
原因 農機具格納小屋の建築
調査期間 平成6年11月14日～平成7年3月31日
調査面積 646㎡



第15図 第106-5次調査 調査区位置図(1:5,000)

1) はじめに 今回の申請地は、史跡東部の鍛冶山地区に所在する現況畑地で近鉄山田線沿いの北側に位置する。当該地域は、これまでの発掘調査で平安時代前半期の方格地割の存在が確認さ

れてきたが、平成4年度第98次調査では柵列に囲まれた内に大型の掘立柱建物が検出されるなど斎宮内院地区と考える方形区画（鍛冶山西ブロック）が想定される。

本調査区は、この方形区画の東隣の区画（鍛冶山中ブロック）東辺部にあたり、方格地割を構成する南北方向の区画道路とこの方格地割以前の奈良時代の古道両側溝も重複することが予想されるなどこの地域を解明するうえで調査結果が大変期待された。

2) 調査概要

イ 遺構

調査範囲が広いため、まず最初に調査地北東角で東西2.4m、南北7.5mのグリッドを設定した。次に調査地南半と北半の2回に分けて調査区を設定し、面積は合計646㎡に及んだ。

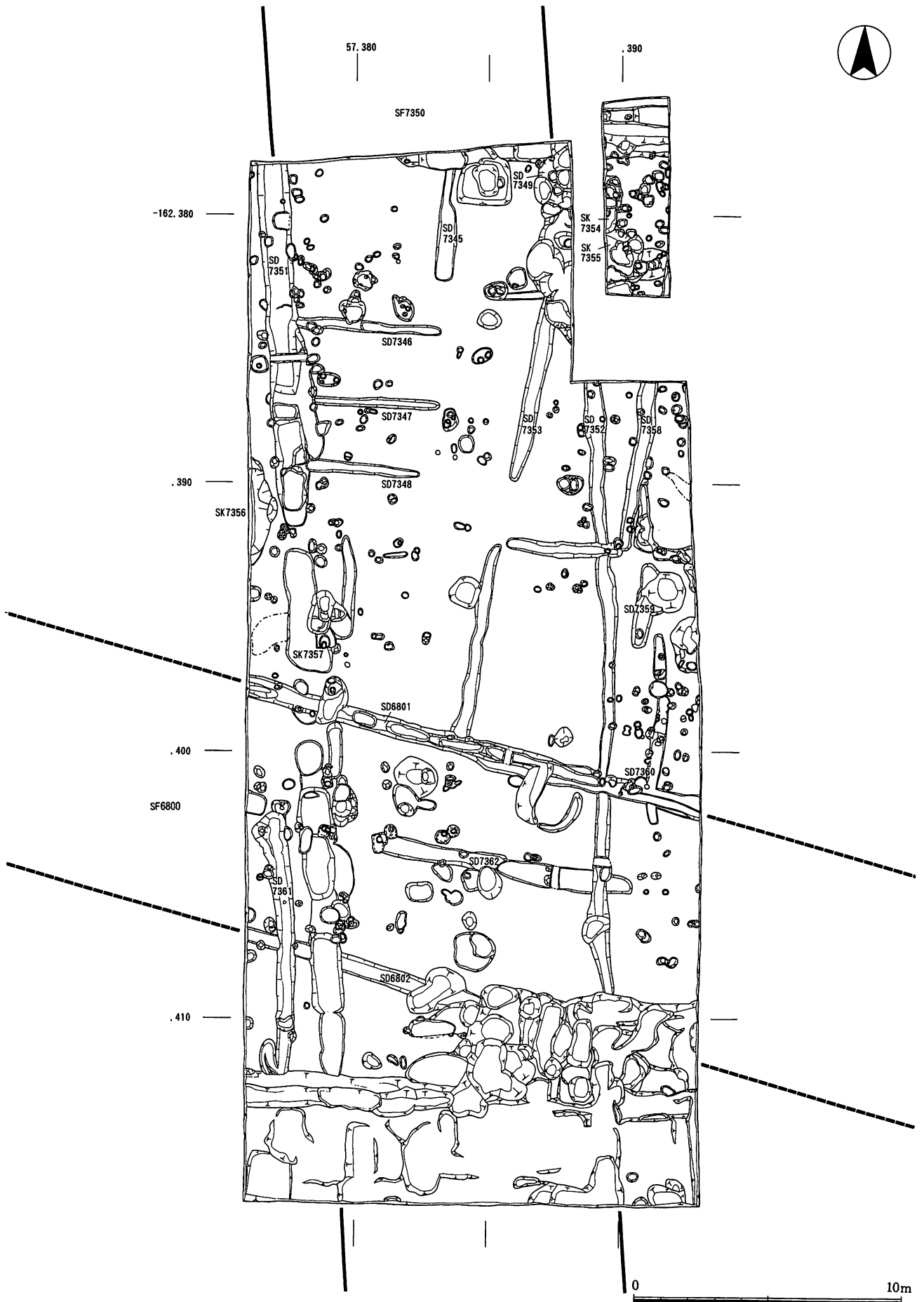
包含層は薄く、表土下約30cmで地山面を確認したが、調査区南端は粘土採掘のためにかなり削平されていた。

主な遺構としては、調査前に想定した方格地割を構成する南北方向の区画道路S F 7350及びその両側溝、奈良時代の古道S F 6800の両側側溝を検出した。

南北方向の区画道路の幅は両側溝の心々間で約12mである。S D 7351は調査区西端で断続的に確認されたが、溝幅1m前後、深さ約0.4mである。S D 7352は調査区東端ではほぼ連続して検出されたが、溝幅は0.5m～0.7mで深さは0.1m前後と浅い。これらの側溝の西側あるいは東側で、溝方向とほぼ平行する浅い溝も確認されている。

また、奈良時代の古道両側溝は調査区南半で区画道路の側溝と交差して検出された。道路幅は両側溝の心々間で約9mである。S D 6801は溝幅約0.7mだが、溝底が部分的にさらに深く掘り下げられて二段掘りとなっており、遺構検出面から一段目まで約0.1m、最も深い溝底では約0.25m～0.35mである。S D 6802は溝幅は約0.7m、深さは0.1m前後と北側溝に比較してもかなり浅く、各溝における性格が違うものと考えられる。

なお、古道の両側溝に直交する方向の溝も見られたが、遺構の新旧関係から方格地割の区画道路の側溝よりも新しいことも判明した。



第16図 第106-5次調査 遺構実測図(1:200)

口 遺 物 表土や包含層から奈良・平安時代の土師器・須恵器が少量出土したが、遺物の大半は調査区北半で区画道路西側溝の遺構上面及び埋土から出土している。

S D7351からは、奈良時代後期の土師器(1~14)・須恵器(15~19)が出土した。土師器には、蓋・杯・椀・皿・鉢・壺の器種がある。杯(1~3)は、口径16.0cm前後、器高3.1cm~3.7cmのもので、平坦な底部にわずかに内弯して外方に開く口縁部が続き、底部と口縁部の境は丸味をもつ。口縁端部は、引き出され内傾する面をもつ(1・2)、内側につまみ出されるもの(3)など差異がある。底部をヘラケズリし、口縁部をヨコナデ調整するb手法で調整する。(1)は、内面に一段の放射と螺線暗文をめぐらす。

椀(4)は、古墳時代から引き継がれている器形であり、丸味をもつ底部に内弯する口縁部が立ち上がる。口縁部には、粘土紐の接合痕を残している。

蓋(5)は、外面をヘラミガキ調整するもので、擬宝珠形のつまみが付くものと考えられる。

皿は、口径21cm未満、器高2.4cmの皿(6・8)と口径23.0cm、器高2.7cmの皿(7)があり、底部と口縁部の境に丸味をもち、口縁部が緩く外方に開く器形をなしている。底部をヘラケズリし、口縁部をヨコナデするb手法で調整され、口縁部外面をヘラミガキする(6)もある。

鉢は、口径37.4cm、器高12.5cm(10)と口径39.5cm、器高12.0cm(11)の2個体が出土しており、底部が上げ底となり、口縁部が大きく外反して開き、口縁端部内面が段状となる。内外面をハケ調整した後ヨコナデ調整している。

壺(9)は、口径14.0cm、推定器高20cm、高台径13.6cmのもので、ほぼ球形の体部に直立気味の口縁部が付く。高台は、「八」字状に大きく開く。

甕は、口縁部が大きく外反し、長胴甕となる(12・13)があり、体部外面をタテハケ、内面上部をヨコハケ、内面下半部をヘラケズリで調整する。

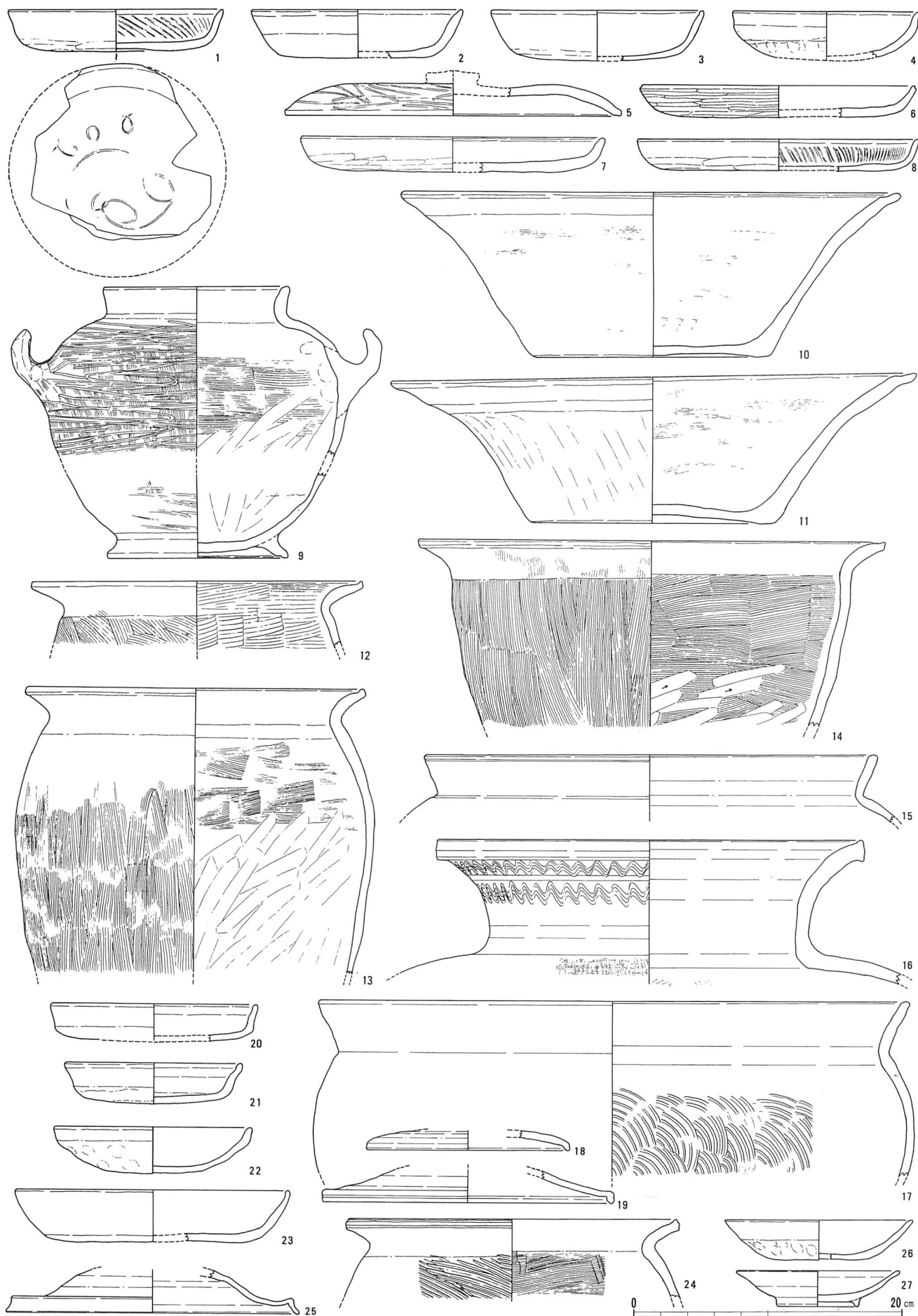
須恵器には、杯蓋(18・19)がある。杯蓋は、口縁端部が肥厚して引き出されるもの(18)と垂直に引き出されるもの(19)があり、ともに擬宝珠形のつまみが付くものと考えられる。ともに硯として転用されたもので、内面に墨痕を残している。

甕は、短い口縁部が直線的に外傾して開く(15・17)と頸部が垂直気味に立ち上がり、口縁端部が大きく外反する(16)の2種類がある。

以上のように、S D7351出土の土器は、奈良時代後期の一括遺物として捉えることができる。

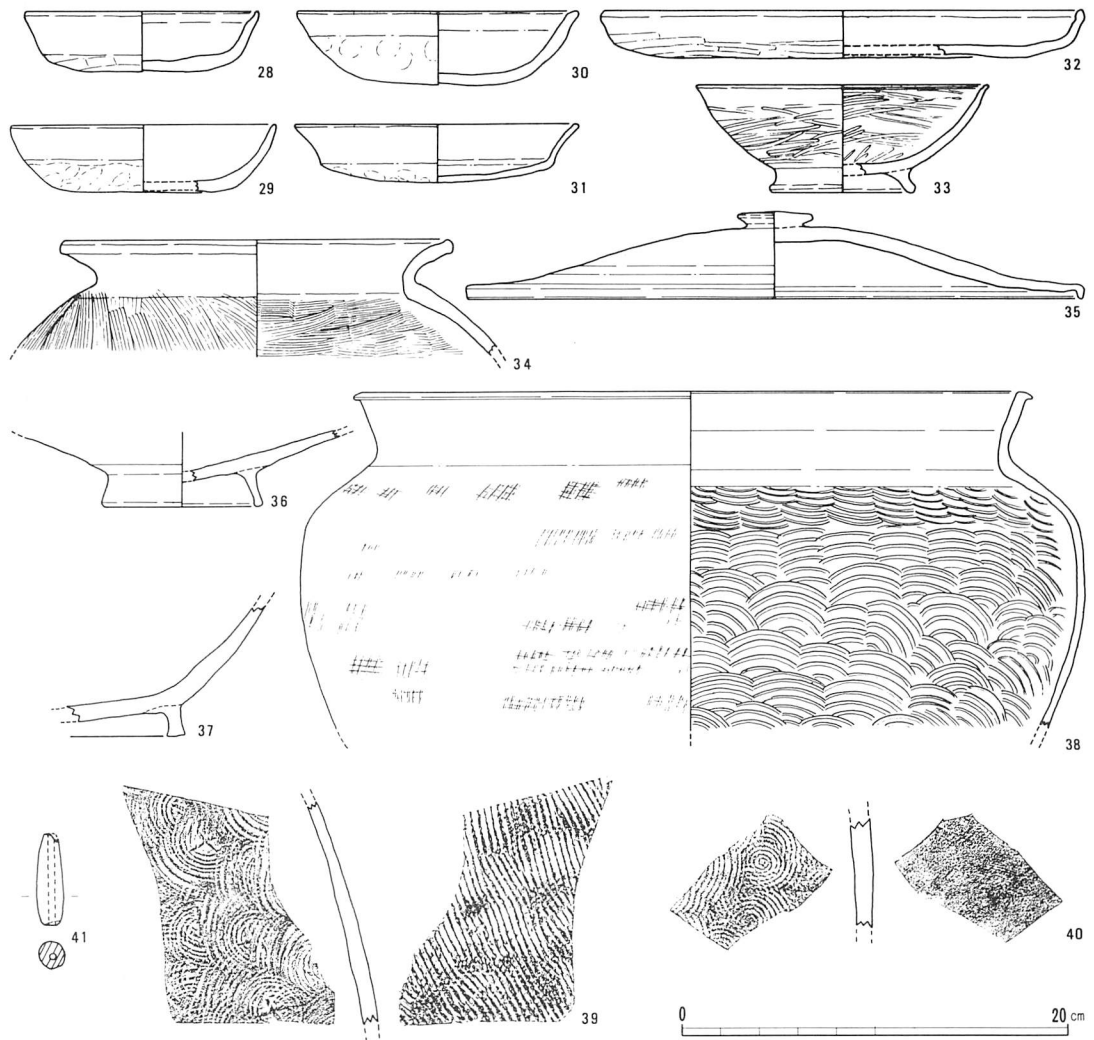
なお、奈良時代の古道の両側溝からは土師器細片がわずかに出土したにすぎず、詳細な時期決定はむずかしい。

特殊な遺物としては、調査地北東角のグリッド内の土坑S K7355から内面に漆が付着したとみられる奈良時代の土師器杯が出土している。



第17図 第106-5次調査 遺物実測図

S D 7351 ; 1~19, S K 7355 ; 20・21, S D 7361 ; 22・23, S D 7353 ; 24, S D 7359 ; 25, S K 7356 ; 26・27

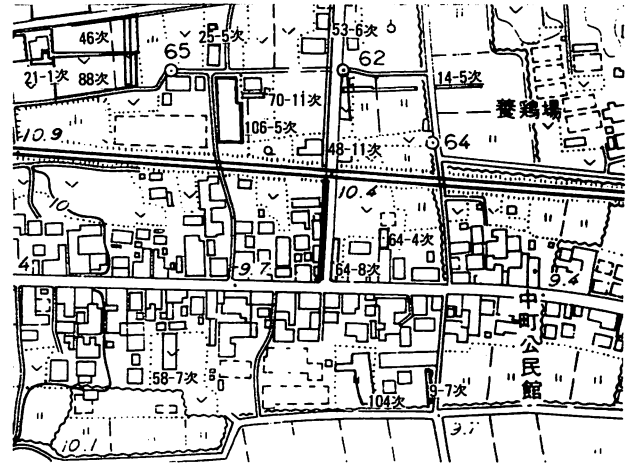


第18図 第106-5次調査 遺物実測図 包含層他；28～41

ハ まとめ 今回の調査では、当初予想された南北方向の区画道路と奈良時代の古道両側側溝が検出され、区画溝と古道の新旧関係があらためて確認されたこと、史跡西部古里地区より史跡東部までほぼ直線的に延びると考えられた古道がこの地区まで延長されたこと、また、方格地割の鍛冶山中ブロックとした方形区画の東西辺は約120mであったことなど、この地区の遺構の実態がかなり明確となった点で大変貴重な成果といえる。（野原宏司）

付篇 1 町道側溝新設に伴う事前調査の概要

調査場所 多気郡明和町大字斎宮中町地内
原因 町道改良事業による側溝新設
調査期間 平成6年12月19日～12月26日
調査面積 75㎡



第19図 町道側溝新設調査区位置図(1:5,000)

1) はじめに 今回の申請は、史跡東辺部の中町地内を南北に通る町道中町役場馬之上線敷地内に雨水対策として側溝を新設するものである。当該地域は、これまでの発掘調査で平安時代前半期の方格子地割の存在が確認されており、斎宮跡を解明するうえで重要な場所であることが知られている。この町道沿いでは住宅新築等にかかる現状変更に伴う事前調査が部分的に行われているが、本調査地の位置する近鉄山田線以南については遺構・遺物の実態がほとんど把握されていないところでもある。

2) 調査概要

イ 遺構 調査区は側溝新設工事に伴う掘削の範囲に合わせて設定し、幅約1m、総延長75mの細長いトレンチとなった。まず最初に現道のアスファルト舗装部分を小型重機で除去した後現況地盤下約0.6mまで掘り下げたが、道路建設時に盛られた河砂利が厚く堆積しており地山面までは達しなかった。地山面を検出するためさらに掘削したところ調査区南端で深さ0.7m～1.1mのところでも部分的に黄色粘土の地山を検出したが、遺構はまったく確認されなかった。また、調査区北端に向かって道路面下の盛土がいつそう厚くなり地山面を確認するには至らなかった。

ロ 遺物 遺物は、まったく出土しなかった。

ハ まとめ 今回の調査区では遺構・遺物を含めてまったく確認されない結果となったが、今後は周辺地域での発掘調査の進展とともに資料を蓄積し遺構の性格を解明していく必要があると思われる。

(野原宏司)

付篇 2 史跡現状変更等許可申請

平成6年度中の齋宮跡にかかわる史跡現状変更等許可申請は、35件が提出され、年度内の発掘調査は、9件実施した。(うち、第105次および第106-3次調査の2件は、昨年度に申請され、本年度調査になったもの。)このうち、3件が、史跡の実態解明のための計画的発掘調査で、5件は個人住宅の新築等の現状変更に伴い事前に発掘調査を実施したものである。計画的発掘調査を除いてこれら現状変更の施工に当たっては齋宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立会いを条件として許可を得ていることから、各申請者からの連絡を得たものについては、これに応じて掘削等に伴う工事立会いを実施している。

なお、以下に各現状変更申請について(A)個人等の民間による申請、(B)公共機関及び企業等による地域住民の生活環境の整備に関わる申請、(C)史跡環境整備及び史跡の維持管理並びにその活用等に伴う申請、(D)県が行う史跡の実態解明のための計画的発掘調査を実施するに当たっての申請に分けて、その内訳について若干ふれておきたい。

(A) 個人等による申請

史跡内住民をはじめとする個人等による申請は21件あり、そのうち保存管理計画における土地利用区分のうち第二種保存地区及び第三種保存地区に於いて個人住宅や農業用倉庫の新築を内容とする申請は6件提出され、その内5件について国庫補助金の対象として事前の発掘調査実施した。残りの1件は過年度に事前調査が終わっているところへの申請である。他の15件については個人住宅や農業用倉庫などの増築および改築等で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、これらは工事立会いを条件に許可を得ている。

(B) 公共機関等による地域生活環境整備に伴う申請

明和町及び町教育委員会による道路や排水路の整備等公共事業が11件と近畿日本鉄道(株)によるネットフェンス建植の1件がある。このうち調査が対象となったものは、前年度に申請された排水路の改修(継続事業)に伴い実施した第106-3次調査1件のみであり、その他は立合いで着工している。

(C) 史跡環境整備及び維持管理等に伴う申請

史跡の維持管理及び活用にかかわる事業等についての申請は今年度はなかった。

(D) 計画的発掘調査のための申請

これは三重県教育委員会が主体となり、齋宮歴史博物館が担当して実施している史跡の実態解明のための調査で3件の申請が出されている。その内平成6年度分の調査は2件(1,630㎡)で、他の1件は次年度に実施の調査(第109次調査)分である。なお、年度当初に実施した第105次調査(780㎡)に関わる申請は既に前年度に提出済である。

これらの内容については齋宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。(森田幸伸)

第3表 平成6年度現状変更等許可申請一覧表

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請受付日	許可日	変更面積	区分	備考
1	斎宮字東加座2374	A	丸山理左右	個人住宅新築	6.4.21	6.6.24	86.12㎡	2	
2	斎宮字鈴池338-1	A	森西喜作	農用倉庫新築	6.5.2	6.9.21	59.04㎡	3	第106-1次調査
3	斎宮字笛川2356	A	北村義一	井戸屋形改築	6.5.19	6.6.6	26.78㎡	4	
4	斎宮字楽殿2891-3	A	向井浩高	個人住宅新築	6.6.13	6.10.14	109.30㎡	3	第106-2次調査
5	竹川字東裏地内	B	明和町	側溝蓋設置	6.6.14	6.8.10	L=60m	3・4	
6	竹川字中垣内461-1	A	山路行也	個人住宅改築	6.6.15	6.8.16	105.70㎡	4	
7	竹川字中垣内414他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	6.7.11	6.8.24	530㎡	3	第107次調査
8	斎宮字笛川1058-2	A	川合修一	個人住宅揚方	6.6.24	6.7.11	105.58㎡	4	
9	斎宮字笛川地内	B	明和町	側溝新設	6.6.27	7.10.18	L=75m	4	立会い調査
10	斎宮字牛葉地内	B	明和町	排水路改修	6.6.27	6.10.14	L=267m	1・3・4	
11	斎宮字木葉山128-3	A	加藤すみ子	個人倉庫の新築	6.6.29	6.10.14	44.77㎡	3	
12	斎宮字東加座地内	B	明和町	上水道引き込	6.7.6	6.8.10	L=27.4m	2	
13	斎宮字塚山3338-3	A	水谷明生	個人住宅増築	6.7.6	6.9.2	63.33㎡	4	
14	斎宮字内山3037-11	A	田中正敏	住宅改築	6.7.13	6.9.2	141.32㎡	4	
15	竹川字東裏360-1他	A	竹川自治会	墓地改修	6.7.14	6.8.10	15.4㎡	3	
16	竹川字祇戸	B	三重県	道路舗装改良	6.7.25	6.8.18	L=159.9m	3	
17	竹川字東裏281	B	明和町教育委員会	調整池改修	6.7.26	6.8.10	L=34.3m	4	
18	斎宮字牛葉338-2	A	森西章	住宅改築	6.8.8	6.9.21	167.54㎡	4	
19	竹川字中垣内地内	A	川口清一	排水管理設	6.8.1	6.10.14	L=76m	3	
20	竹川字中垣内地内	B	明和町	上水道引き込	6.7.29	6.10.14	L=77.5m	3	
21	竹川字中垣内地内	B	三重県	側溝改修	6.8.15	6.11.10	L=75m	4	
22	斎宮字柳原2779-2他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	6.9.9	6.10.18	1,100㎡	1	第108次調査
23	斎宮字西前沖2657-1	A	佐々木仁	個人住宅増築	6.9.16	6.10.21	18.56㎡	4	
24	斎宮字御館2972-3他	B	近畿日本鉄道k.k	ネットフェンス柵の建植	6.10.7	6.10.28	L=157m	3	
25	竹川字南裏239-1	A	樋口武生	井戸屋形改築	6.10.20	6.11.15	82.0㎡	4	
26	斎宮字中西589	A	宗安寺	住宅の増築	6.10.24	6.11.15	24.28㎡	4	
27	斎宮字荻干2861-3	A	坂本正成	個人住宅新築	6.11.9	手続き中	89.22㎡	3	第106-4次調査
28	斎宮字鍛冶山2362-3	A	青山尚	農用倉庫新築	6.11.10	7.2.17	8.28㎡	2	第106-5次調査
29	斎宮字内山3037-25	A	田垣実郷	個人住宅増築	6.12.21	7.2.24	81.15㎡	4	
30	斎宮字笛川2345-3	A	竹内喜三雄	進入橋新設	7.1.13	7.2.10	7.60㎡	3	
31	斎宮字東加座地内	B	明和町教育委員会	排水路底打ち	7.1.5	7.2.24	L=760m	4	
32	斎宮字牛葉574-2	A	浅尾健	個人住宅改築	7.2.3	7.4.10	82.4㎡	4	
33	斎宮字塚山3340-4	A	田畑学	個人住宅新築	7.2.6	手続き中	137㎡	3	第106-6次調査
34	竹川字花園地内	B	明和町	用水路改修	7.2.7	7.4.14	L=66m	3	
35	斎宮字鍛冶山2763-1他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	7.3.22	7.5.9	1,070㎡	2	第109次調査

第4表 掘立柱建物・柵列等一覧表

遺構番号	規模	棟方向	桁行(m)	梁行(m)	柱間寸法(m)		時期	備考
					桁行	梁行		

第106-1次調査(6AEW-J)

SA7330	(1)	E3°S	(2.4)		2.4		平安前半期	
SB7334	(2)×-	E2°S	(4.4)	-	2.2	-	平安中期	
SB7331	(1)×(1)	E7°S	(1.7)	(1.7)	1.7	1.7	不明	
SB7333	(2)×(1)	E0°W	(4.2)	(2.6)	2.1	2.6	"	
SB7332	(1)×2	N2°E	(2.0)	4.0	2.0	2.0	"	
SB7335	(2)×-	E6°N	(4.4)	-	2.2	-	"	

第106-3次調査(6AFL・6AFM)

SA6760	(10)	E4°N	(29.4)		2.94		平安初期	
SA6780	(6)	E4°N	(17.6)		2.94		"	

第5表 遺物観察表

第106-1次調査

No	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	SB7334	土師器杯	(口径) 14.2cm (残高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや密 微砂粒多く含む	良好	内:にぶい褐 外:にぶい橙 7.5YR6/3 5YR7/4	約20%		R2
2	SB7334	土師器杯	(口径) 13.6cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後板ナデ、内面ナデ	やや密 微砂粒多く含む	良好	内:にぶい橙 外:灰黄褐～ 灰 7.5YR7/3 10YR6/2～ 2.5Y5/1	約45%	底部に煤付着	R1
3	SK7338	土師器杯	(口径) 11.2cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや密	良好	内:浅黄橙 外: " 10YR8/3 10YR8/2	約95%		R7
4	F-7 Pit-1	土師器杯	(口径) 13.2cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗	良好	内:浅黄橙 外: " 10YR8/4 7.5YR8/3	約40%		R4
5	E-8 Pit-1	土師器杯	(口径) 11.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや密	良好	内:にぶい黄橙 外: " 10YR7/3 "	約35%		R3
6	F-7 Pit-1	土師器皿	(口径) 11.5cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗、1mmの 砂粒多く含む	良好	内:にぶい黄橙 外:灰黄褐 10YR7/3 10YR6/2	完形		R5
7	D-6 Pit-4	灰軸陶器 小碗	(口径) 12.2cm (高台径) 6.2cm (器高) 2.8cm	ロクロナデ、高台貼付時の ナデ	やや密	良好	内:灰白 外: " 釉: " 2.5YR7/1 " 7.5Y8/1	約20%	口縁部漬け掛け	R8
8	D-6 包含層	土師器杯	(口径) 11.2cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗	良好	内:浅黄橙 外: " 7.5YR8/4 "	約30%		R10
9	E-8 包含層	土師器杯	(口径) 16.1cm (器高) 4.3cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	粗、1mm～2mm大の 砂粒多く含む	良好	内:浅黄橙 外: " 10YR8/3 "	約60%		R6
10	D-6 包含層	土師器杯	(口径) 15.6cm (器高) 4.5cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや密、1mm～ 2mm大の砂粒多く 含む	良好	内:にぶい黄橙 ～褐灰 外: " 10YR7/3～ 10YR4/1 10YR7/2	約70%	内外面底部黒変煤付着	R13
11	D-6 包含層	土師器杯	(口径) 11.8cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや密、微砂粒 含む	良好	内:にぶい黄橙 外: " 10YR7/3 "	約30%		R12
12	D-6 包含層	土師器杯	(口径) 11.0cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗	良好	内:浅黄橙 外:にぶい黄橙 ～灰 10YR8/3 10YR7/3～ 5Y6/1	約25%	器壁の磨滅著しい	R11
13	D-6 包含層	土師器 壺蓋	(口径) 18.7cm (器高) 4.2cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナデ、貼付把手	やや粗、1mm大の 砂粒多く含む	良好	内:にぶい橙 外:にぶい黄橙 7.5YR7/4 10YR7/3	約70%	口縁部焼成不良のため 黒変	R15
14	D-6 包含層	土師器 甕	(口径) 19.1cm (残高) 7.4cm	口縁部ヨコナデ、外面タテ ハケ・オサエ、内面ヨコハケ	やや密	良好	内:にぶい黄橙 外:にぶい褐 ～黒褐 10YR6/3 7.5YR6/3～ 10YR3/1	口縁部1/5		R14
15	D-6 包含層	土師器 甕	(口径) 28.2cm (残高) 17.0cm	口縁部ヨコナデ、外面タテ 方向の粗いハケ目、内面板 ナデ	やや密、微砂粒 多く含む	良好	内:にぶい橙 外:にぶい黄橙 にぶい黒褐 7.5YR6/4 10YR6/3～ 10YR5/3	口縁部の2/3		R17
16	D-6 包含層	灰軸陶器 碗	(口径) 15.2cm (残高) 5.4cm	内外面ロクロナデ	やや密	良好	内:灰白 外: " 釉:灰オリーブ 5Y7/1 " 5Y6/2	約10%	灰釉漬け掛け 輪花1か所のみ残存	R16
17	D-5 遺構上面	灰軸陶器 碗	(高台径) 5.9cm (残高) 1.0cm	内外面ロクロナデ、底部ヘラ 切後ロクロナデ、貼付高台	精緻	良好	内:灰白 外: " 2.5Y8/1 "	高台部の1/2	外面底部に墨書 (宮口内と読めるか?)	R18

第106 - 2次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	S D7339	土師器杯	(口径) 11.1cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面オサエ後ナデ	やや粗	良好	内: ぶい黄橙 10YR7/4 外: " "	ほぼ完形		R 1
2	L-8 包含層	陶器碗 (山茶碗)	(高台径) 6.5cm (残高) 3.9cm	内外面回転ナデ、底部外面糸切痕、糊圧痕、貼付高台	やや密 1mm~2mm大の砂粒含む	良好	内: ぶい黄橙 10YR6/3 外: 灰黄 2.5YR7/2	約40%	外面底部に墨書	R 2

第106 - 3次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	S K7342	土師器杯	(口径) 15.8cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面オサエ後ナデ	やや粗	良好	内: 橙 7.5YR6/6 外: " "	約80%		R 1
2	S D2660	土師器皿	(口径) 24.0cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ナデ	やや密	ややあまい	内: ぶい橙 7.5YR7/4 外: 橙 5YR6/6	約15%	器壁の磨滅若しく、調整不明瞭	R 2
3	G-7 Pit-3	土師器杯	(口径) 13.6cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗	良好	内: ぶい赤橙 10YR6/4 外: 橙 2.5YR6/6	約35%	器壁の磨滅著しい	R 3
4	G-2 Pit-2	土師器皿	(口径) 9.5cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部オサエ後ナデ	やや粗	良好	内: 浅黄橙 10YR8/4 外: " "	ほぼ完形		R 4
5	G-6 Pit-3	土師器皿	(口径) 9.6cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面オサエ後ナデ	やや粗	良好	内: 浅黄橙10YR8/3~淡橙5YR8/4 外: " "	約40%	器壁磨滅している	R 5
6	G-4 Pit-4	ロコ土師器台付皿	(口径) 16.1cm (高台径) 6.8cm (器高) 3.8cm	内外面ロコナデ、底部糸切痕、貼付高台	やや粗	良好	内: 浅黄橙 7.5YR8/4 外: " "	約45%		R 6
7	F-3 包含層	土師器碗	(高台径) 7.8cm (残高) 1.7cm	貼付高台	やや粗、最大3mmの砂粒含む	良好	内: 浅黄橙 10YR8/3 ~灰白 ~10YR8/2 外: " "	高台部の3/4	器壁の磨滅若しく、調整不明瞭	R 7

第106 - 4次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	S D2505	土師器皿	(口径) 8.0cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	密	良好	内: 淡黄 2.5YR3 外: 淡黄 2.5YR4	約50%	器壁の磨滅若しく、調整不明瞭	R 1
2	S D2505	陶器碗	(台径) 6.6cm (残高) 1.8cm	内外面ロコナデ、底部回転糸切痕、貼付高台	密	良好	内: 灰白 10YR8/1 外: 灰白 10YR8/2	高台部の1/5		R 2
3	S D2506	土師器皿	(口径) 6.8cm (器高) 1.1cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	粗	並	内: 橙 7.5YR6/6 外: 橙 5.5YR 7/6	約25%	器壁磨滅している	R 4
4	S D2506	土師器皿	(口径) 8.2cm (器高) 0.9cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	密	良好	内: 橙 5YR 6/6 外: " "	約25%		R 5

第106 - 5次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	S D7351	土師器杯	(口径) 16.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面放射・螺旋暗文	密	良好	内: 橙 5YR6/6 外: " "	約50%		R 8
2	S D7351	土師器杯	(口径) 16.0cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ後ナデか、内面ナデ	やや密	良好	内: ぶい橙 7.5YR6/4 外: " "	約30%		R 5
3	S D7351	土師器杯	(口径) 16.0cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ナデか	密	良好	内: ぶい橙 7.5YR7/4 外: ぶい黄橙 10YR7/4	約30%		R 6
4	S D7351	土師器碗	(口径) 14.0cm (残高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗、1mm大の砂粒含む	良好	内: ぶい黄橙 10YR7/4 外: " "	約20%		R 7
5	S D7351	土師器蓋	(口径) 25.2cm (残高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、外面ヘラミガキ・底部粗いヘラミガキ、内面ナデ	密	良好	内: 橙 5YR7/6 外: 橙 5YR6/8	約40%		R 9
6	S D7351	土師器皿	(口径) 20.6cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、外面ヘラミガキ・底部ケズリ後部分的にヘラミガキ	密	良好	内: 橙 5YR6/6 外: 橙 5YR7/6	約40%		R 10
7	S D7351	土師器皿	(口径) 23.0cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ヨコナデ	やや粗、細砂粒多く含む	良好	内: 橙 5YR6/6 外: " "	約30%		R 13
8	S D7351	土師器皿	(口径) 21.0cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面放射暗文	密	良好	内: 橙 2.5YR6/8 外: " "	約20%	内面底部磨滅しているが暗文残るか?	R 11

No	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号	
9	S D 7351	土師器 薬壺	(口径)14.0cm (台径)13.6cm (器高)約20cm	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ後ヘラミガキ、台部貼付ナデ、内面上半ナデ・ヨコハケ、下半ケズリ	緻密	良好	内:橙 外: "	7.5YR7/6 2.5YR6/8	約40%	R14	
10	S D 7351	土師器 鉢	(口径)37.4cm (底径)18.0cm (器高)12.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ヨコハケ後ナデか	やや粗	良好	内:橙 外:橙	5YR6/6 2.5YR6/6	約70%	器壁の磨滅著しく、調整不明瞭	R18
11	S D 7351	土師器 鉢	(口径)39.5cm (底径)18.5cm (器高)12.0cm	口縁部ヨコナデ、外面工具によるナデ、ヨコハケのちナデ	やや粗	良好	内:橙 外:橙	2.5YR6/8 5YR7/8	約70%	器壁の磨滅著しい器形の歪み大きい	R17
12	S D 7351	土師器 長胴甕	(口径)25.2cm (残高)5.1cm	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	良好	内:ぶい橙 外:橙	7.5YR7/4 5YR6/6	口径の1/6約	外面ハケ5本/cm 内面ハケ3本/cm	R15
13	S D 7351	土師器 長胴甕	(口径)25.6cm (器高)21.3cm	口縁部ヨコナデ、外面ナデ、タテハケ、内面ヨコハケケズリ	やや密、1mm～2mm大の砂粒多く含む	良好	内:ぶい橙 外:橙	7.5Y6/4 7.5YR7/6	口径の1/2	外面ハケ7本/cm 内面ハケ15本/cm	R16
14	S D 7351	土師器 鍋	(口径)35.0cm (残高)13.9cm	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ・ケズリ	やや密	良好	内:ぶい黄橙 外: "	10YR7/4 "	約20%	外面ハケ10本/cm 内面ハケ10本/cm	R19
15	S D 7351	須恵器 甕	(口径)34.2cm (残高)4.9cm	内外面ロクロナデ、内面頸部ロクロケズリ、	やや粗、1mm大の砂粒多く含む	良好	内:黄灰 外: "	2.5Y6/1 "	口径の1/6	自然釉付着端部に沈線	R22
16	S D 7351	須恵器 甕	(口径)30.2cm (残高)10.7cm	内外面ロクロナデ、外面タテキ痕、内面同心円状のあて具痕わずかにみられる	やや密、2mmの砂粒多く含む	良好	内:灰 外: "	5Y6/1～暗灰 N3/0 "	口径の1/3	波状紋4本単位	R21
17	S D 7351	須恵器 甕	(口径)44.6cm (残高)13.1cm	内外面ロクロナデ、外面タタキ	やや粗	ややあまい	内:灰 外: "	5Y4/1 5Y5/1	約12%	口径の1/9器壁の磨滅著しく、調整不明瞭	R20
18	S D 7351	須恵器 蓋	(口径)15.4cm (残高)1.5cm	内外面ロクロナデ、外面ロクロケズリ	やや密、1mm大の砂粒多く含む	良好	内:黄灰 外:黄灰	2.5Y5/1 5Y5/1	約12%	転用硯 内面に曇痕あり	R39
19	S D 7351	須恵器 蓋	(口径)22.0cm (残高)2.5cm	内外面ロクロナデ	やや密	良好	内:灰黄 外:灰黄	2.5Y6/2 2.5Y7/2	約10%	転用硯 内面に曇痕あり	R40
20	S K 7355	土師器 杯	(口径)15.6cm (残高)2.3cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗、微砂粒多く含む	良好	内:橙 外: "	5YR7/6 "	約25%	器壁の磨滅著しい	R1
21	S K 7355	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高)3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや密、微砂粒多く含む	良好	内:橙 外:橙 漆:暗赤褐	2.5YR6/8 5YR6/6 5YR3/2	約50%	内面に漆付着	R42
22	S D 7361	土師器 杯	(口径)14.8cm (器高)3.4cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	密、1mm～3mmの大砂粒含む	良好	内:橙 外:ぶい橙	7.5YR7/6 7.5YR7/4	約40%		R26
23	S D 7361	土師器 杯	(口径)20.6cm (器高)3.9cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリか、内面ナデ	密	良好	内:橙 外: "	5YR6/8 "	約30%	器壁磨滅している	R25
24	S D 7353	土師器 甕	(口径)25.0cm (残高)6.0cm	口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ヨコハケ	やや粗、微砂粒多く含む	良好	内:橙 外: "	5YR7/6 "	約25%	外面ハケ3本/cm 内面ハケ12本/cm	R23
25	S D 7359	須恵器 蓋	(口径)22.0cm (残高)3.4cm	内外面ロクロナデ、外面ロクロケズリ	やや密	良好	内:灰黄褐 外:灰褐	10YR5/2 10YR4/2	約10%	焼き歪みあり	R24
26	S K 7356	土師器 杯	(口径)14.1cm (器高)3.4cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ、内面回転ナデ	やや粗、細砂粒多く含む	良好	内:明赤褐 外: "	2.5YR5/8 "	約25%		R2
27	S K 7356	灰釉陶器 碗	(口径)12.2cm (高台径)6.2cm (器高)3.0cm	内外面ロクロナデ、貼付高台	やや密、微砂粒多く含む	良好	内:浅黄 外:灰白	2.5Y7/3 5Y7/1	約35%		R3
28	C-3 P i t - 1	土師器 杯	(口径)12.3cm (器高)3.0cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面回転ナデ	やや密、微砂粒多く含む	良好	内:橙 外: "	7.5YR6/6 7.5YR7/6	約50%		R28
29	C-3 P i t - 1	土師器 杯	(口径)14.0cm (残高)3.5cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ、内面回転ナデ	やや粗	良好	内:ぶい橙 外: "	10YR7/3 "	約20%		R29
30	B-5 P i t - 3	土師器 杯	(口径)14.8cm (器高)3.9cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ・ナデ、内面ナデ	やや粗、1mm～2mm砂粒多く含む	良好	内:ぶい橙 外: "	10YR7/3 "	約75%	外面底部に板目痕	R27
31	F-3 P i t - 1	土師器 杯	(口径)15.0cm (器高)3.0cm	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや密	良好	内:橙にぶい橙 外:ぶい橙 ～橙	5YR6/6～7.5YR5/3 7.5YR6/4 ～2.5YR6/6	約30%		R30
32	G-2 P i t - 1	土師器 皿	(口径)25.1cm (器高)2.5cm	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ後ナデか、内面ナデ	やや粗、微砂粒多く含む	良好	内:ぶい橙 外: "	7.5YR6/4 "	約25%		R31
33	G-2 包含層	黒色土器 碗	(口径)15.2cm (高台径)7.6cm (器高)5.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ヘラミガキ、貼付高台	やや密	良好	内:ぶい橙 外:黒	7.5YR6/4 5Y2/1	約15%		R41
34	C-3 P i t - 1	土師器 甕	(口径)20.6cm (残高)6.7cm	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	良好	内:灰黄褐 外:ぶい黄橙	10YR6/3 10YR7/4	口径の1/10	内面口縁部に煤付着	R32
35	E-2 包含層	須恵器 碗	(口径)32.2cm (器高)4.5cm	口縁部ロクロナデ、外面ロクロケズリ、内面ロクロ目をナデケン、貼付ツマミ	やや粗	良好	内:黄灰 外:黄灰 釉:オリーブ灰	2.5YR6/1 2.5YR6/2 10YR6/2	約70%	器形の歪み大 外面自然釉付着 ツマミ径3.9cm	R33
36	D-2 包含層	須恵器 盤	(高台径)8.0cm (残高)4.0cm	内外面ロクロナデ、外面底部糸切り痕、貼付高台	やや密	良好	内:灰黄 外:灰黄	2.5YR6/2 2.5YR6/1	高台部のみ1/4	内面に自然降灰	R35
37	D-2 包含層	須恵器 鉢	(高台径) - (高)6.8cm	ロクロケズリ、内面底部に内面同心円状のあて具痕	やや粗	良好	内:灰黄 外:灰	2.5YR7/2 5Y6/1	高台のみ	器壁の磨滅著しく、調整不明瞭	R37
38	D-2 包含層	須恵器 甕	(口径)35.4cm (残高)17.7cm	内外面ロクロナデ、外面タタキ後スリ消シ、	やや粗、微砂粒多く含む	良好	内:灰黄 外:黄灰	2.5YR6/2 2.5YR6/1	口径の1/6		R34
39	S K 7356	須恵器 甕	-	外面平行叩目文、内面輪文	やや密	良好	内:灰白 外: "	5YR7/1 N7/0～N6/0	体部片		R46
40	D-2 包含層	須恵器 甕	-	外面平行叩目文、内面同心円状のあて具痕	やや密	良好	内:灰 外:灰オリーブ	5YR6/1 5YR6/2	体部片		R47
No	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号	
41	S D 7361	土製品 土鉢	(長)4.7cm (幅)1.5cm	(孔径)0.4cm (重量)9.3g	やや粗、微砂粒多く含む	良好	浅黄橙 ～黄灰	7.5YR8/3 2.5YR5/1	ほぼ完形	管状土鉢 土師質	R45

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせい6ねんどげんじょうへんこうきんきゅうはつくつちようさほうこく							
書名	史跡齋宮跡 平成6年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町齋宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	12							
編著者名	吉水康夫・野原宏司・大川勝宏・赤岩 操・森田幸伸							
編集機関	齋宮歴史博物館							
所在地	〒515-03 三重県多気郡明和町竹川503番地 Tel05965-2-3800							
発行年月日	明和町教育委員会 1996年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 齋宮跡 第106-1次 調査 第106-2次 調査 第106-3次 調査 第106-4次 調査 第106-5次 調査	たきぐんめいわちようさいくう 多気郡明和町齋宮他	24442	210	34°31′55″	136°36′16″	19940614 ~940713	180	倉庫新築
	さいくうあざすずいけ 齋宮字鈴池			34°32′30″	136°37′37″			
	さいくうあざがくでん 齋宮字楽殿							
	さいくうあざかじやま 齋宮字鍛冶山							
	さいくうあざかりぼし 齋宮字苜干							
さいくうあざかじやま 齋宮字鍛冶山					19941114 ~950331	646	倉庫新築	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
第106-1次 調 査	官 衙		掘立柱建物5棟・溝・柵	緑釉陶器・墨書土器				
第106-2次 調 査			溝	緑釉陶器・墨書土器				
第106-3次 調 査			柵・古道側溝					
第106-4次 調 査			鎌倉時代大溝					
第106-5次 調 査			道路側溝	漆付着土師器				

圖 版



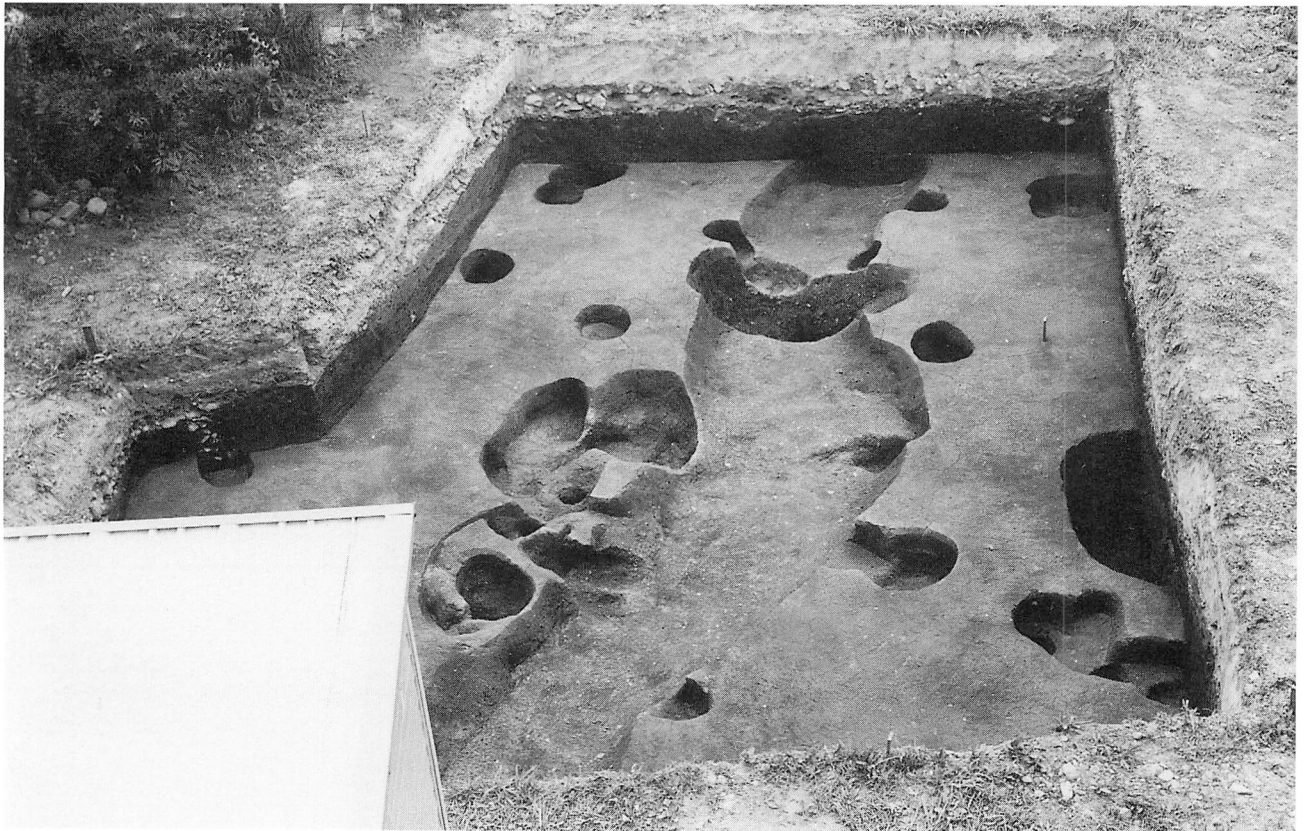
調査区全景（南から）



S D7336（西から）



調査区全景（北から）



調査区全景（東から）



E区東半（西から）



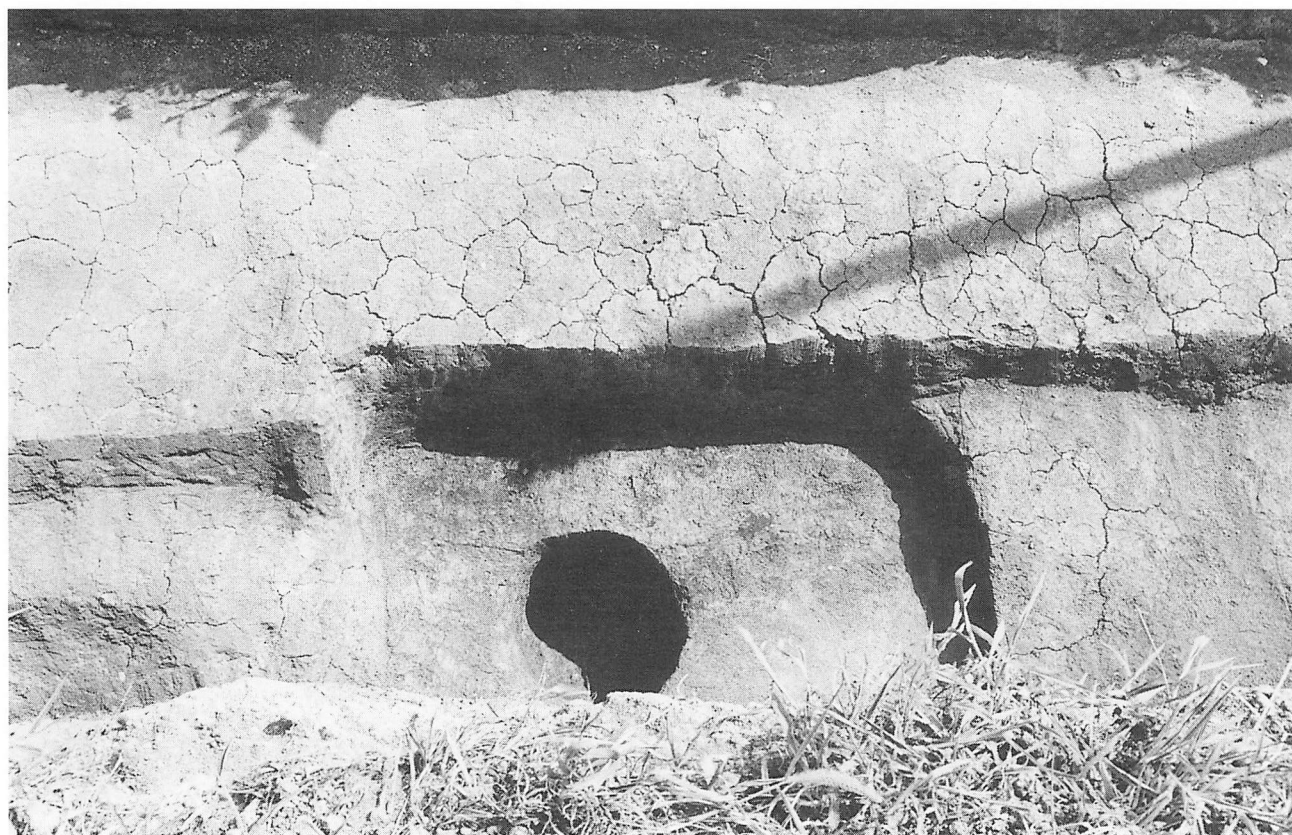
S D6802（南東から）



F区西半（西から）



F区西半（東から）



S A6760柱穴（北から）



G区北端（西から）



G区全景（北から）



G区全景（南から）



調査区全景（南から）



S D2505（東から）



調査区北東部（北から）



調査区北半（北から）



調査区南半（北から）



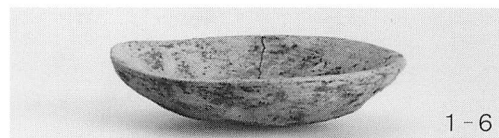
調査区南半（東から）



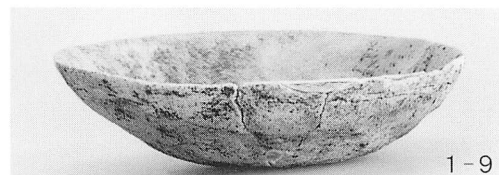
1-15



1-3



1-6



1-9



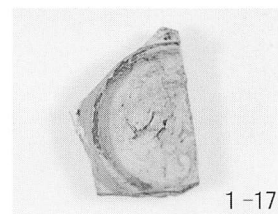
1-13



2-1



3-6



1-17



3-1



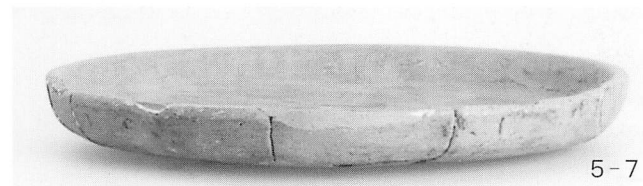
3-3



3-4



5-6



5-7



5-10



5-11



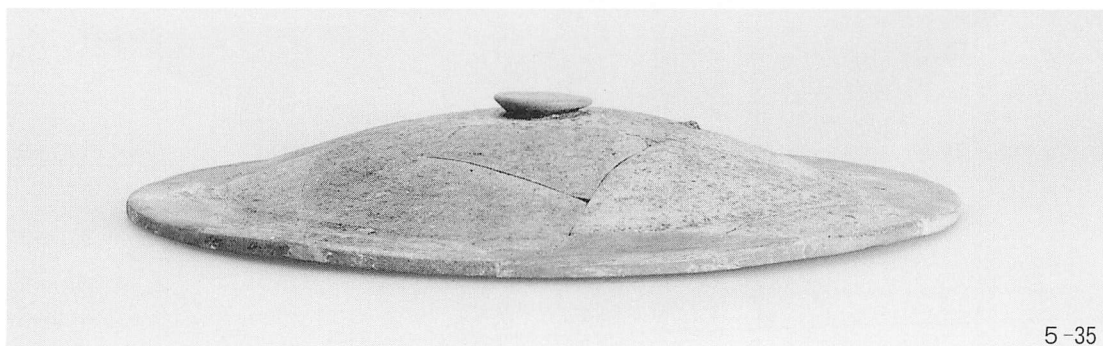
5-21



5-16



5-13



5-35

史 跡 齋 宮 跡

平成 6 年 度

現 状 変 更 緊 急 発 掘 調 査 報 告

平 成 8 年 1 月 31 日

編 集 齋 宮 歴 史 博 物 館
明 和 町 教 育 委 員 会

発 行 明 和 町 教 育 委 員 会

印 刷 光 出 版 印 刷 株 式 会 社
